

有識者インタビュー・アンケート結果

あいちトリエンナーレのあり方検討委員会

2019年12月18日

目 次

1. 有識者インタビュー (P1～P33)
2. アンケート結果 (P34～P95)

1. 有識者インタビュー結果

インタビュー先(敬称略)		実施日	ページ
木村 幹	神戸大学大学院国際協力研究科教授	9月11日	P2-8
三浦 瑠麗	国際政治学者	9月24日	P9-19
木村 草太	首都大学東京法学部教授	9月24日	P20-33

※アンケート結果はP34から収録。

有識者インタビュー①

9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

(少女像について)

- まず、経緯について説明する。1992年に在韓日本大使館前(正確には、元在韓日本大使館前)でいわゆる「水曜集会」が始まり、2011年12月に1000回を記念する形で少女像が建つ。韓国的な文脈としては、少女像はある種の政治運動に使われているといえる。
- 2011年に、韓国の憲法裁判所より、慰安婦問題で韓国政府が何もしていないという不作為に対して、違憲という判決が出た。当時のイ・ミョンバク政権はそこまで重要な判決だと思っておらず、形だけ日本に何か言えはいかくらいの認識だった。せっかく憲法裁判所で判決が出たのに、大きな流れとならないということもあり、挺身隊問題対策協議会(=水曜集会を中心になって実施している団体)は、ソウル市と話し合っ、少女像を建てることを強行した。したがって、日本大使館前に建っている少女像は、水曜集会の1000回を記念して建てているものなので、挺身隊対策協議会の運動の記念碑でもあるといえる。
- 問題は、韓国各地、世界各地にある同様の少女像は、日本大使館前の少女像と必ずしも同じ経緯でできたものではないということ。韓国国内にあるものには、自治体が関与しているケースもある。抗日運動、民族運動のモニュメントとして、あつるいは、学校教育や水曜集会に大学生、高校生がデモに参加する(デモに参加すると単位がもらえる)などの関連で、地方都市に少女像ができることもある。

有識者インタビュー①

9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

- 韓国の地方都市の少女像は、民族運動の象徴として建てられている。日本植民地支配に対する抵抗として、労務者、郷土の英雄などが元々建てられている場所に設置される事が多い。例えば、小学校の遠足などで、学校の先生が地元の英雄について話す場で、民族運動といえは慰安婦の話も欠かせないということで話題にされている。1990年代まで、韓国では、慰安婦の問題にはあまり触れられなかった。民族運動に関わる記念碑は、古いものではパク・チョンヒ政権、さらにはその以前の時代に作られたものもあるが、その中のモチーフには慰安婦は入っていなかった。最近では、ジェンダーに対する若干の配慮もあり、女性の話も重要ということで、慰安婦の像が建つという動きもある。ある意味、現在韓国で一番盛り上がっている民族運動だと言える。自治体関わっている場合には、首長による選挙対策的な意味もある。
- 海外の少女像は、大きく二系統ある。東南アジアでは、韓国系の大きなコミュニティーがあるわけではないので、韓国人がジェンダー問題等のつながりで(挺身隊問題対策協議会の人たちはもともとジェンダー問題に関心を持つ人々であり、その観点から慰安婦問題に注目した)、その国際的なネットワークを使って、おたくの地域でも少女像を建てたら、という様な形で、各地で像が建てられていくケースが多いようである。

有識者インタビュー①

9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

- 対して米国では、韓国人コミュニティが重要で、韓国人コミュニティのあるところに、少女像ができる傾向がある。最初の頃は、韓国人コミュニティの中にある韓国人教会が絡む形で、「少女像を建てよう」という話になると、挺身隊問題対策協議会等と連絡を取ってその運動が具体化する事が多かった。韓国人コミュニティで少女像が浮上するのは、ある種のコミュニティの結集のための意味もある。韓国人のコミュニティも二世、三世になってくると、コミュニティが崩壊しがち。そうすると、慰安婦問題は、韓国人としてのアイデンティティーを取り戻すための運動をする際の格好の的となる。この問題に関しては、「ノー」という人がいないし、しかも、ジェンダーの観点が入っているので、現代的にも見えるので、韓国人コミュニティ的には盛り上がる。韓国国内での少女像建設が街おこし、郷土史探しのようなものだとすれば、米国の場合は、韓国人コミュニティの復興運動の意味もある。
- 例えば、徴用工の問題などは、現代性がないので人々はあまりピンと来ない。慰安婦問題はある意味とてもわかりやすい。誰がどう見ても韓国人は悪くない。かわいそうだよ、とうまく持っていけるので、運動としては成立しやすい。また、少女像を建てると、必ず日本の総領事館がかみついて、運動を盛り上げてくれる。米国のどこかの片隅で少女像を建ててもその段階では誰も注目しないが、日本総領事館の職員が来ればニュースになり、皆が動き出す。韓国人コミュニティからすれば、自分たちの存在感が出せるし、本国からもほめてもらえるし、言うことなし。

有識者インタビュー① 9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

- 挺身隊問題対策協議会は、政治的に、右か左かでいうと左。対立する団体も多い。慰安婦自身の団体ではなく、あくまで支援者の団体であり、慰安婦の中には、挺身隊問題対策協議会のことを悪く言う人もいる。挺身隊問題対策協議会そのものに関しては色々言われているが、それと、少女像の問題は別と考えるべき。
- アートの面でいえば、慰安婦といえばこの少女像を思い浮かべ、慰安婦というのは、14-15歳の少女の姿をしているものだというイメージ作りに成功している。

(Japanese military sexual slaveryという表現について)

- sex slaveという英語表現は、1980年代から使われている。理由は、慰安婦の英訳の「comfort women」が英語として意味をなしておらず、当初意味がわからなかったから。90年代初頭にこの 이슈が明確化するまで、欧米の新聞も、日本の英字新聞も「sex slave」という言葉を使っている。
- sex slaveという言葉は、慰安婦のみならず、かなり広い文脈で使われる。挺身隊問題対策協議会は、「military sexual slavery」という言葉を使う。この語はもともとあった韓国語の「戦場慰安婦」という言葉から来ている。韓国では、60年代、70年代、米軍基地の周辺で働くセックスワーカーのことを「慰安婦」と呼んでいた。日本軍において動員された慰安婦ということがわかるように、「戦場慰安婦」と区別して呼ぶこととした。それにJapaneseを付けて「Japanese military sexual slavery」となった。

有識者インタビュー① 9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

- つまり、もともと日本語で使われていた「慰安婦」という言葉の韓国語読みが、戦後の韓国で意味が拡大し、日本軍のところで働いていた人だけでなく、他の基地周辺で働いていた人も全部「慰安婦」と呼ぶようになったので、日本軍のところで働いていた慰安婦を表す言葉がなくなってしまい、「挺身隊」という言葉が使われ始めた。が、「挺身隊」という言葉も不正確ということがわかり、「戦場慰安婦」という表現を使うようになった。その「戦場慰安婦」という韓国語を英語に翻訳したので、「Japanese military sexual slavery」という表現になった。「military」には、軍人に連れていかれたという意味はなく、「戦場にいた」という意味合い。
- 日本軍が慰安婦を強制連行したのかという点についての研究者の見解は、結論から言うと、慰安婦の動員形態や慰安所の状態は、時代と地域によって多様なので一概には言えない。強制的に引っ張っていったかどうかは別として、軍が統制する列車や船で戦場まで運んでいったことは事実。だが、個々の慰安婦が家をどういう経緯で出たかは千差万別。朝鮮人の村長(=日本行政の末端)が借金取りとともに来て、お金を払えなければ立ち退けと言って、娘を連れて行かれたという証言もある。同様の話は、労働者の動員でもある話なので、政府機関が全ての事例で全く動員に関与していないというのは苦しいと思う。ソウルに挺身隊問題対策協議会の博物館があるが、「金銭のやり取りがあって」、「お父さんが借金したので村長に連れて行かれた」など、経済的に追い込まれて連れて行かれたものも「強制連行」として捉えている。つまり、韓国の人たちが、慰安婦が全員、突然、やってきた日本軍にトラックで連れて行かれたと思っているわけではない。強制連行かどうかはそもそも日本の植民支配を合法と見るか否かの問題もあり、議論は錯綜した状態にある。

有識者インタビュー① 9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

- ソウルの日本大使館前の少女像は、キム夫妻が挺身隊問題対策協議会に頼まれて作ったもの。なので、平和の少女像のもともとの経緯に、政治的な意味がないわけではない。挺身隊問題対策協議会も、もともとジェンダーの観点からだけ純粹に作ったとは言わないと思うし、そう言ったら嘘になる。今の韓国の若い人には、抑圧された女性全体の象徴と捉える人たちもいるし、挺身隊対策協議会の流れを引く人々もそう説明している。ただ、韓国国内と国外では、捉え方が大きく異なる。国外でも、韓国人コミュニティーとそうでない人たちでは、捉え方が大きく異なる。韓国国内では日本統治と結びついてくるが、例えば、ベトナムの人たちになると、(日本と戦っていないため)日本との関係はあまり意識されないだろう。フィリピンの人たちは自分たちのこととして考えるかもしれないが。
- 韓国は、国民史の形成に苦勞している国民なので、モニュメントを建てたり、シンボルを作って、近現代史をつくっている。国がなくなったことのない日本と比べ、国がなくなったり2つに分かれたりした韓国では、ナショナルヒストリーの主導権を巡っての争いは激しい。慰安婦は、数少ない全民族一致で「これはかわいそう」と言えるもの。そういう意味では慰安婦問題も、慰安婦像も、民族運動のシンボルとして大成功していると言える。日本の右翼の反発も含めて、大成功といえる。韓国は、大統領の毀誉褒貶が激しく、全民族のヒーローとして銅像の建てにくい国。あることはあるが、建てるたびに反対運動も起こる。そういう意味では、無垢な民衆を象徴するので慰安婦は、韓国の「自由の女神」のような存在ともいえる。

有識者インタビュー① 9月11日 木村 幹 氏(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

(**韓国のデモに、女子大生が楽しそうに参加していることについて**)

- 慰安婦問題は、韓国では、国民一致で日本が悪いと言える問題なので、参加者もヒステリックにならない。そもそも今の韓国では歴史認識問題で、日本人が考えているようなヒステリックな雰囲気にはなることはほとんどない。
- 少女像には、宗教性もある。少女像にお供えの様な行為をしたり、祈りを捧げる人もいる。そういう意味では、日本人から見れば道祖神的に見えるかもしれない。儒教では先祖崇拝があるので、「みんなの先祖」という感じだろう。少女像のミニチュアは、挺身隊問題対策協議会が作成して、販売している。
- 少女像をジェンダーの話に持っていっても、日本では左寄りのものとして受け止められてしまう。このあたりは日本のジェンダーに関わる運動固有の問題もありそう。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【切り取られたことがすべてなのか】

- 実際に現場を見ることができてよかったというのが率直な感想だが、実際に見て自分が思っていたものと違ったかといえば、そうではない。つまり、一部の人による文脈を無視したツイッター投稿などの「切り取り」によってのみ、本展示が反感を集めたのだという言説には少々無理があるということだ。
- もちろん、芸術作品を理解するうえでは文脈を無視することはできない。作者の意図が誤って伝わっているのであれば、それを修正する必要もあるだろう。しかし、反感や冷淡な反応を生んだ背景には必ずしも「誤解」ではない部分も多かったのではないかと思う。

【キュレーションの不足】

- 展示作品の見せ方については、改善すれば反感を薄めることができたかもしれない要素がいくつかあった。まず会場がとても狭く、狭い空間に多くのテーマを詰め込みすぎた印象がある。
- 作品配置に関するもっと適切な配慮はありえたと思う。天皇関連の大浦氏などの作品、続いて目の付くところに中垣克久氏の円墳のアートがあり、そして、そのすぐ先に見えるのが「少女像」である。大浦作品によって、説明不足なままに天皇に対する愛憎のようなウェットな世界観を見せられた鑑賞者は、十分他の作品を消化することなく、この「円墳」アートと「少女像」に直面することになる。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【キュレーションの不足(続き)】

- 入口から入ってすぐのところにある大浦氏の版画作品は、意外と穏やかであっさりとしたものである。次の大浦氏の映像作品は、ウェットな世界観をもっており、哀調響くメロディーにさらされながら、鑑賞者に説明なしに黙って見ることを要請する。ただ、全てを理解するためには、そこで立ち止まって何十分も見なければならない。
- 右翼が怒ったのは、彼らのSNS投稿を見る限り、作者の意図やイデオロギーに関わらず、公立美術館で天皇の肖像(が含まれたもの)を焼いてみせ、踏んだという行為そのものだと思う。従って、どのような説明を加えても彼らがそれを許容するのは難しかっただろう。
- 私個人としては、そのようなウェットな天皇に対する依存的態度は、全編見ても共感はできなかった。
- 感情のジェットコースターのように、情を掻き立てる表現と、「円墳」のように鑑賞者に「分断線」を引く表現(「目覚めた者」と「愚か者」を分けようとする行為)に晒されたうえで、あえて鑑賞者は「少女像」に共感してみることを提案される。しかし、そのような短時間に情や反感を掻き立てられた人が共感に移行することができるだろうか。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【キュレーションの不足(続き)】

- 短時間に、消化しきれないままこの動線に沿って見れば、「これは反日プロパガンダだ」というイメージを持つ人は少なくないと思う。中垣氏の作品は「また総動員の戦争になるぞ」という警告を込めていると解釈できるのだが、そのような安保環境に関する作者の個人的意見の表明にすべての人が首肯するわけでもない。ありていに言えば、「考えさせられる作品を大衆が拒んだ」のではなく、「そういう言説は沢山見てきたからもう飽き飽きしている」の方が実情に近かったのではないか。そして、そのあとに少女像に共感する気持ちの余裕が残っている人はそこまで多くないのではないか。
- 感情の激しい浮き沈みを同じ部屋の中で短い時間内に経験させることによって、本来得られたであろう人道的・フェミニズム的観点からの共感が得られにくかった可能性がある。デリケートなテーマである性暴力を扱って却って共感を遠ざけてしまったことは個人的には残念に思う。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【キュレーションの不足(続き)】

- もう一つのキュレーションの不足は、「表現の不自由展」実行委員会が作成した表現の自由の規制に関する「年表」をめぐる問題である。表現の不自由というのはもっと以前からあったことなのに、この年表は表現に対して政府が介入した2001年から始まっている。決して芸術とは言えない、菅官房長官に対する質問で有名な望月衣塑子記者(東京新聞)への質問制限など、「安倍政権vs批判者」という位置づけで、政治的な対立構図がふんだんに盛り込まれている。
- 政権に忖度したために日本社会全体が「事なかれ主義」に陥っているという解釈であり、この年表を見た鑑賞者は、「表現の不自由展」実行委員会が、どのような世界観に立っているのかがよくわかったと思う。これが彼らの視野の限界であり「表現の不自由展」のような大々的テーマに取り組むうえでは、価値観の偏りが否めない。
- 年表がこのような世界観を示している以上、この年表を100%受け入れることができる人しか共感しない。受け入れられない人は、この展示から学ぶ気がなかなか起こらないだろう。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【性暴力問題とマイノリティの扱い方】

- キュレータは、扱うテーマに愛を持っていなければいけないと思う。
- 性被害の被害当事者ではない「表現の不自由展」実行委員会の方々の本展示におけるごちゃまぜのテーマの扱い方には、愛を感じない。
- 元慰安婦の日常写真の連作シリーズにはアーティストに対象への愛が感じられた。しかし、苦しみに満ちた1枚の写真のみがクローズアップされてしまった結果、糾弾調の作品としてしか見られなくなり、共感を呼び起こすかもしれない日常の風景がメディアから省略されてしまった。
- 大義名分を高らかに謳う「表現の不自由展」実行委員会こそ本来は、もっともセンシティブなテーマに対する敬意を必要とするのではないか。
- そして、見る側が考えるべきことは、外交問題となっている慰安婦合意や徴用工などの件で、「プロパガンダ」に対する警戒心を持つのは当然にしても、日本におけるマイノリティである朝鮮人の表現の機会を抑圧することには極めて慎重であるべき。
- マイノリティの恨み辛みの表現は反日的と思われようとも許容されるべき。国家を嫌う表現が趣味に合わなくても、少数民族の表現の機会は奪ってはいけないからだ。

【表現の不自由という大テーマを扱う上での目配りの不足】

- 表現の不自由、侵害というのは、当然2001年よりもっと前から存在するものであって、決して政治的問題に限ったものではない。むしろ、現在の表現の自由を損なう忖度、自主規制は、往々にして「大衆」からの圧力という形で生じている。それに対して、営利目的の企業が経営上の合理的な判断により問題を回避しようとする事なかれ主義もあれば、政治家が民衆におもねって表現をめぐる戦いを仕掛けることもある。
- あるいは、報道の使命を負っているメディアが問題回避的な行動をとることによって、結果的に、多数者の専制がまかり通ったり、政権に対する批判が不足したりするという状況である。
- このように複層的な問題である表現の不自由問題を、「表現の不自由展」実行委員会は、非常に浅薄に考えているという印象である。
- 日本で、三樂のローリングKというバーボンウイスキーの広告が女性団体の抗議によって撤回された件があった。このような事件も、表現の不自由問題として議論すべき問題である。多くの人が不快感を覚えるとか、自分の中の差別感情や偏った常識が表出する可能性があるから表現できないことになると、そもそも表現自体ができなくなる。こういった問題まで捉えきれていれば、豊かな展示になっていたと思う。

【表現の不自由という大テーマを扱う上での目配りの不足(続き)】

- 今回の展示には、公立美術館ではないもの、あるいは必ずしも排除されたとまではいえないものが作品に含まれていたことを考えると、「検閲された、排除された、と言いたい」、「挑発して表現への攻撃を露わにしたい」といった、自らの弱者性を再確認する作業が、予め織り込まれていたという気がする。

【中間層を味方につける可能性について】

- 今回のあいちトリエンナーレの問題は、全国的にも広く報道されているし、ツイッターなどのSNSを含めて、一般の方々も多く発言している。その中間にいて、今回のあいちトリエンナーレの問題に比較的冷淡な態度をとっている中間層は、小手先の修正だけでは味方につけることができないだろう。
- あいちトリエンナーレのような地域芸術祭を今後も存続させるには、市民の支持が必要であり、特に電凸も表立った抗議もせず、かといって賛成もしていない中間層を味方に付けないと難しい。
- 私の印象としては、どれ一つとっても自分が見たくないとか、怒りを覚える作品はなかった。そのかわり、感動を覚えるようなものや目新しいものもなく、むしろ「こんなものが排除されたのか」という驚きの方向で、この展示を成立させる工夫ができたのではないかと思う。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【中間層を味方につける可能性について(続き)】

- 千葉市が補助金50万円の交付を取りやめた大きな絵画(「償わなければならないこと」)は、あまり注目されていない作品であるが、ポップでかわいらしい絵で、定着してしまった少女像とは違った独自の世界観で絵を描いている。大浦氏の映像作品のインパクトなしにこのポップな絵だけを見ていると、千葉市の対応に関する議論が提起される余地はあったと思う。
- また、ニコンサロンでいったん展示拒否された元慰安婦の日常写真の連作シリーズは、なかなか見応えがあるものもあり、その他にもなぜこれが展示拒否されたのか疑問に思う作品も複数あった。
- しかし、それらの作品は表に出ることはなく、話題にもならず、また、中間層の人たちは積極的に味方することもなく冷淡であり続けた。結果、実行委員会側は脅迫を受けたにもかかわらず「問題を起こした」側として世間に認識されている。
- 芸術を鑑賞するという行為は、アーティストや場をしきるキュレータと、一般の鑑賞者の間に大きな壁を創り出す。このヒエラルキー関係は、「時間」や「コスト」をかけて会場にたどり着き、並び、犠牲を払ってたどり着いた人びとが、好まない芸術や見解に対して不快さを感じる主要な原因である。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【中間層を味方につける可能性について(続き)】

- 苦勞して出掛け、並び、なのに質の低いと思われるものに出会った、その表現はさっぱり共感できないものであるか、あるいは作者が自らの無謬性と正義を主張しているものにしか見えない、となれば、脅迫行為は論外にしても、人びとの怒りが集まるのは至極当然の流れだったのではないか。
- ニコンサロンで展示拒否された元慰安婦の写真シリーズから慰安婦像へ続く展示のルートは共感を呼ぶ展示たりえたと思う。普通のお婆さんを主人公にして、日常のさりげないシーンを描くことによって人々の共感を呼び起こすことは可能である。
- 人々を味方に付けるならば、表現の自由全体について考える機会を提供するというのの一つの選択肢だと思う。しかし、その際には政治的偏りが注意深く遠ざけられていないと、入り口で選別が行われ、一方のイデオロギーを信じている人びとしか入ってこない。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【芸術監督について】

- 津田大介氏は、あいちトリエンナーレに「表現の不自由展」を持ち込むところまでは、サクセスストーリーを描いていたと思う。持ち込んだ後に、こんな風になるとは思っていなかったと思う。
- 津田大介氏の一番いいところからすれば、ジャーナリスティックな意味での面白さを表現すればよかったのに、結果的にそれを自分でキュレートして作ることをしなかった。恐らくやったとしても、彼の政治的信条からすれば左よりになったとは思いますが。
- 全くの私見であるが、あいちトリエンナーレがこのような問題を避けたかったのならば、芸術監督の選定自体が間違っていたということになる。私が津田大介氏の任命に反対ということではなく、彼は前衛的な人でジャーナリストなので、彼がやりたいことと、つつがなく愛知県プロジェクトを行おうというのは本来矛盾する。

有識者インタビュー②

9月24日 三浦 瑠麗 氏(国際政治学者)

【公的な芸術祭の難しさについて】

- 民主化された大衆化社会における芸術の消費の仕方というものが、非常に難しくなってきた。
- 大衆的な民主主義の時代において一番の権力者は民衆であり、一般論として民衆に全く受け入れられない展示会は長期的にマーケットで否定されたり、支援を受けることができなかつたりするために、持続可能性がない。現代においてはエリートが大衆の要求に対して脆弱で、原理原則を維持してやせ我慢をすることができなくなっているからである。そして、プロの判断に疑問符が呈されるようになってきたのも大衆化の流れである。
- 今回露わになった人々の要求は、公共の場を借りた展示が、美しいものや、学習意欲を満たすものを展示し、展示それ自体も十分に教育的で説明的であってほしい、というものであった。それに応じるべきかどうかは、どのくらいの観衆の規模を想定するかによる。プロとアマチュアとの綱引きの落としどころは、芸術祭自身の判断であると思う。
- アートは大衆化社会においてはそもそも向かうべき先を見失いつつあるのであって、今回の表現の不自由展のように政治的な「物語」に流れるのは、安直な道であると思うが、それ自体を自己規制すべきとかいうことには当然ならない。ただし、それが多くのファンを獲得できるということもまた言えない。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- 電凸を聞いて、事務局がどこまで芸術性や作品の趣旨を説明すべきかという問題があると思う。事務局の仕事は、市民から頂いた意見を専門家である学芸員や、あいちトリエンナーレの芸術の専門部門にきちんと伝えるところまでだ。作品の説明は、かなり専門的なことになる。芸術監督や作家、事務局の間で、誰がどこまで説明するかを整理しておくべきだった。事務局の電話対応者は、「メッセージを受け取って、芸術監督に伝えるところまでが仕事だ」と整理しておけば、電話を受ける職員は、記録するだけでよくなるし、留守番電話のように「作品へのご意見・ご感想は、録音して作家にお届けします。ピーとなったら、お話しください」という形で、録音した音声データを作家に届けるという対応ができるようになる。事務局を本来負うべきではない負担から解放していくことが必要ではなかったかと考えた。
- 市民からの脅迫や業務妨害には至らないものの、「この作品の展示は不適切ではないか」という抗議はあった。これは、芸術監督や作家たちが、真面目に受け止めるべきだろう。これまでの検証委員会の議論を見ていて、よりキュレーションが工夫できたのではないのか、準備期間がもっと必要だったのではないのかという反省はすべきだというのが、これまでの検証委員会の議論を見ていての私の心証ということになる。ただ、少なくとも、作品に芸術的価値があることは専門家にも否定されていない。「芸術的価値がないものを、政治的理由で展示したというものではないのか」という抗議は、理由がないものであったのではないか。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- 「名古屋市長や菅官房長官の意見表明は検閲ではないか。それこそが市長たちの表現の自由ではないか」という指摘・論点については、私の観点からすると、確かに、市長や官房長官の意見表明が強制力を伴っているわけではないので、表現の自由の制約までは認定できないと考える。ただし、特定の思想信条に対する攻撃の意図で、記者会見の場を使う、つまり公権力の担い手としてしか使えない場を使って意見を述べるというのは、公権力の乱用になる可能性が当然あるとみている。したがって、検閲や表現の自由の侵害ではなく、「思想信条を理由に差別されない権利」の侵害という面はあるだろう。とすれば、河村市長や菅官房長官は、強制力のある発言をした訳ではないからいいのではないかと、ということにはならないはずであると考えている。
- 県が、脅迫・業務妨害を理由に展示を中止した。この結果、作家は作品を展示できなくなった。形式的に安全を理由にして、安全面で問題がないのに中止したということなら、表現の自由や思想による排除の可能性が疑われる。ただ、今回の脅迫・業務妨害は苛烈だった。主催者の危険であるという理由付けは適切なものではないか。作家には、展示を要求する契約上・憲法上の権利があるが、今回の中止が契約違反・憲法違反とまでは言えないのではないかと。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- ただ一方で、作家達への適正手続の観点については、検討を必要とする。作家たちは、公的な場で展示をする特別の権利を給付され、それが停止された。適正手続は、刑事処罰だけでなく、行政上の措置・処分においても重要である。また、判例も、憲法上、行政活動の性質に応じて、それにふさわしい手続が保障されるとしている。受益者は適正手続を求める権利はあるだろう。今回、この適正手続が、十分に作家（ここでいう作家は「表現の不自由展」実行委員会になる可能性もある）に対して適正手続があったのか否かは、議論されてしかるべきだ。これは表現の自由というよりも、憲法31条（適正手続の保障）の類推適用の問題だと思う。ただ、現状かなり切迫した状況の中で中止が決定されている。行政上の適正手続については、行政活動の性質によってどのくらいの厳格さが必要かは変わってくると言われているので、今回のような切迫した事態においては、とりあえず中止をして後から説明をするという形がやむを得なかったと思う。
- 次に、「作家として尊重される地位」について、表現の自由とも関わるのだが、作家は今回のあいちトリエンナーレは誰もが出品できるいわゆるパブリックフォーラムではないので、ここで出展が出来なくなったことは、一般市民としての表現の自由の侵害・制約とは言い難い。これは、多くの憲法学者が認めるところであり、曾我部委員も検証委員会において指摘している。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- もちろん、だからと言って給付をいい加減なやり方で撤回してもよいということにはならない。憲法上、平等原則・非差別原則があり、給付の撤回をする場合に、なぜこちらを中止してこちらは中止しないのか、を合理的に説明できるのかという問題は当然出てくるかと思う。例えば知事が、この作品は気に入らないというような、個人的感情を理由に展示を中止すれば、当然、平等原則違反だと思う。ただし、今回は安全上の理由であり、脅迫・業務妨害の苛烈さを踏まえると、それは合理的な理由になる。そうすると、「作家として平等に、差別なく尊重される権利」が侵害されたことにはならないと言えると思う。
- 最後に、「市民の鑑賞する権利」だが、これも、市民にどれだけ県が安全上の理由についての説明が成り立っているかということかと思う。安全の確保というのは重要な法益であるので、それに理由があるのであれば、鑑賞する権利への制約についても、可能であると見ざるを得ないとなるだろう。
- 全体としては、脅迫や業務妨害がどのくらい苛烈であり、それに対する緊急の対応として、どれくらい適切な判断が行われたのかということが、今回の不自由展についての一番のポイントだと思う。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

Q 名古屋市長、官房長官の意見表明について、表現の自由の問題になりにくいというのはおっしゃるとおりだと思うが、差別されない権利という切り口でみた場合は、違った捉え方が出来るということか。

- そうだと思う。市長や官房長官が、プライベートな立場ではなく、公職の立場を利用した情報発信をした場合、差別を煽るような表現をすることは、憲法上の平等権侵害、差別されない権利の侵害が生じると思う。

Q それは誰の権利か。問題とされた作品の作家の権利か。

- 作家が、問題とされた作品を通して示した思想信条に対する差別をされたということになるのではないか。また、差別を煽らないのは、憲法14条1項から導かれる客観法的な義務であるはず。誰かの権利に関連しなくても、憲法上の問題は生じる。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

Q 今回、「いくつかの作品が、公立美術館で公金を用いた行事において展示されるにふさわしくないのではないか」という議論があったが、それについてはどうお考えか。

- まず、表現の自由は、自分の表現を、公金を使って公的な場で表現する権利ではない。当然には、表現の自由だから展示を続けるべきだとはならない。しかし、この手の給付は、「給付の趣旨を適切に実現するような体制を適切に取ってから給付をしないと、相手を表現者として尊重したということにならない」と思う。給付において、表現者として尊重される権利は、憲法上の権利だろう。この権利を、表現の自由（憲法21条1項）の保障範囲の拡張という観点から導くのか、あるいは平等権・差別されない権利（憲法14条1項）など別の権利から導くのかは議論がある。例えば、公立大学の教授を選ぶときに市長の好き嫌いで選ぶということはやってはいけなくて、学術的な評価によって教授を選ぶ。また、公立図書館に本を入れるときも、議会、市長の好き嫌いで選ぶのではなく、図書館の趣旨を実現するためによりよい蔵書のあり方はなにかということを考えて選ぶべきと言える。

（次頁へ）

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

（前頁からの続き）

- こうした「文化助成のための給付の際には、対象者を表現者として尊重しなくてはならない」、「給付対象は、学術的価値や芸術的価値、スポーツの能力などの文化的価値を基準に選び、対象者の思想・信条などで差別してはならない」、「文化的価値を基準に対象を選ぶには、政治家やその指揮監督を受ける官僚から独立した専門家が実質的な選択をするようにしなければならない」、「政治家や官僚が直接選抜に口を出すのは、対象者を表現者として尊重しているとは言えないから、憲法上の権利の侵害となる」という規範を、思想良心の自由で根拠づけるのか、表現の自由で根拠づけるのか、あるいは私のように差別されない権利、平等権から導くのか。この点は様々な理論体系があり、相互に排他的ではないと考える。今回、きちんと専門家によって作品が選ばれる体制ができていたのか。それが果たされているのであれば、きちんと公金を支出して特別に選ばれた作家に対しての場を提供する理由になる。検証委員会の検証によれば、大村知事が好きに自己の判断で作品の展示を決めたわけでは全くなく、芸術の専門家による選抜のプロセスで作品が選ばれている。公金を支出するだけの説明のつく体制はできていたはずである。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- Q 芸術監督以下、キュレーションチームで芸術家がアートの観点から作品を選定したのであれば、結果として政治的な色がついているというふうに、あるいは過激なものともみなされるものとしても、公立美術館で公金を使っての展示となったとしても、問題はないということでしょうか。
- 芸術的価値の観点から選ばれたのであればそのとおり。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- Q 中止の判断について、「表現の不自由展」実行委員会の方々は、キュレーションを受けることも「検閲」「表現の自由の侵害」という主張をされることがある。こういう場合の「検閲」という言葉の使い方は適切と考えるか。
- 法律用語としての検閲は、最高裁判決により明確に定義が与えられているところであって、一般市民の自由を制限した場合に限られるので、芸術展の芸術監督が、展示者と相談しながら展示の内容を決めていくという場面で、最高裁判例における検閲があったと言えないのは明らかだと思う。
 - その上で、言わんとすることは、芸術監督といえども表現の内容に口を出すのは、表現の自由の理念からおかしいし、場合によっては憲法違反ではないのかということだろう。芸術監督も、公権力の担い手と見ることができるから、自らの政治的信条や差別感情で表現内容に介入したなら、憲法上の問題は当然ある。実行委員の問題意識自体は、もちろんありうると思う。ただ、芸術監督の芸術専門家としての判断なら、展示内容への介入もあり得ることになると思う。芸術監督は、「「表現の不自由展」実行委員会に完全に任せようが、より芸術性が高く趣旨に適った展示ができる」と判断して、委員会に裁量を大きく委ねるという判断をしてもよいし、また、「この展示については芸術監督と密にコンタクトを取って内容についても相談してもらおう方がよい」という判断もあり得る。それは芸術の専門家として選ばれているからこそ、様々な裁量があるところであると思うので、今回の不自由展の内容について、芸術監督が深く介入する必要があると判断したのであれば、それはそれで判断を尊重すべきであると思う。その結果なにが起きたかということについては、芸術監督が判断した結果なので、責任は監督が負うということだと思う。関与すべきとなっても検閲というべきものではなく、芸術監督の作ったプログラムということになると思う。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

Q 大浦氏の作品が、天皇に対する侮辱であるとか、平和の少女像が反日の象徴、日本人に対するヘイトスピーチ、表現の自由の範囲を超えているのではないか、という風に言われるが、この辺りの意見について、なにかコメントはあるか。

- 作品の法益侵害が一定のレベルを超えているという時は、制限されることもあるかと思う。前提として、あいちトリエンナーレ実行委員会側は、安全上の判断が中止理由であるとしていて、作品の内容が問題ではないとしているのでその点については、今回論点になってはいない。
- 「ヘイトスピーチではないかという批判」には、二つの理解の仕方がある。一つは、「この作品は犯罪の域に達しているから中止しなくてはいけないのではないか」という意見だとの理解で、もう一つは「ある種の感情を傷つけるので、作品として展示すべきではない」と言っているだけだという見方だ。犯罪性は展示中止の理由になるが、感情を傷つけただけなら展示中止の理由にはならない。まず、第一の点だが、今回の作品が、個人への名誉毀損、あるいはわいせつ物のような犯罪性を認める人は今回の展示についてはほとんどいないと思う。したがって、犯罪だから展示できないというのは成り立たないと思う。一方、「人の感情を傷つける」ことは、作品展示を中止する理由にならない。芸術専門家や作家が、それぞれに意見を受け止め、今後の作品制作などに活かしてゆくべきだ。また、芸術的価値がないものを人の感情を傷つけるために展示した、というなら展示中止の理由になるかもしれあい。ただし、芸術的価値は、芸術の専門家が判断すべき問題だ。この点は、法律家としては判断しかねる問題であると考えている。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- Q 大浦氏が昭和天皇と思しき肖像を燃やしてしまうというのは、特定個人に対する侮辱に当たるので犯罪や不法行為に当たるのではないかという意見があるが、それは今コメントいただいた少女像の問題とは違うと思うのだが、それについてはどうか。
- そもそも死者の名誉毀損がどこまで成立するのかという問題と、公正な論評の法理もある。刑事の侮辱罪には、ほとんど判例がない。しかし、民事では判例がある。侮辱による名誉棄損については、公務員が、公務員として行った行為としての論評は、真実に基づいている限りは自由になしうる、という公正な論評の法理を採るのが判例だろう。刑罰の謙抑性からすれば、民事不法行為にならないものを罰するのは均衡を失する。ゆえに、公正な論評の法理は、刑事法にも適用し得る。昭和天皇を非難しているように見えたとしても、天皇として行った行為に対しての非難として受け止められるものであれば、公正な論評の法理として民事上不法行為にはならない。ということは今回の作品も不法行為にならないと判断するのが普通である。今回も、大浦さんの作品が犯罪になるという説明は難しい。一連の事態の中で、大浦作品に犯罪性を認める見解を示した法律家は、私の見た限りでは存在しない。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- Q 名古屋市長の主張として「便宜供与」と表現の自由を区別している。つまり、表現の規制と表現の援助を区別して、今回「便宜供与」なので、撤回ありうべしだと繰り返し発言しているがどうか。
- 便宜供与の撤回であったとしても、適正手続は必要。市長がそのような判断をする場合は、あいちトリエンナーレ実行委員会あるいは出展作家側に対して適切な告知、聴聞の機会を与える責任は当然生じると思う。それが作品の内容、作品に込められた思想を差別するような内容だと平等権の問題が生じるし、表現内容を理由に給付を撤回するのは表現の自由の侵害だという理論構成もある。憲法理論上、まったく好き勝手に撤回できません、とはならない。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

- Q 個々の出展作家と県との関係において。県は中止決定の時に相談せねばならないのか、あるいは、中止決定を受けて不当だと作家が考えた時に、何らかの法的措置が取れるのか。
- それは「表現の不自由展」実行委員会と個々の出展作家との間にどういう関係があったのかが明らかにならないと分からない。今回、あいちトリエンナーレ実行委員会と契約していたのは「表現の不自由展」実行委員会だということで、個々の作家とあいちトリエンナーレ実行委員会との関係がどうかは、複雑な契約解釈になると思う。このあたりは、まだ検証が十分ではなく、現段階では、契約法上は、なんとも判断しようがないのではないか。
 - ただ、少なくとも「表現の不自由展」実行委員会には、展示の中止がされる場合、個々の出展作家に説明する責任は生じると思う。「表現の不自由展」実行委員会は、あいちトリエンナーレ実行委員会に対して、個々の出展作家に対して説明する十分な材料を提供してほしいと申し出ることにはできるだろう。公法関係としては、個々の出展作家との関係で、「表現の不自由展」実行委員会がむしろ行政側になるという理解もできる。作品選抜の業務委託と見ることができるからだ。そうなると、中止理由は、行政機関内での情報共有の問題になるだろう。

有識者インタビュー③

9月24日 木村 草太 氏（首都大学東京法学部教授）

Q そもそもあいちトリエンナーレ実行委員会は憲法に拘束されるという前提で良いか。

- 拘束される前提をとらないといけないと思う。公金で、公共機関が設置した存在であるので。ここで憲法が適用されないとなると、差別的に作品を選んだり、特定の宗教のための儀式を行うなど、脱憲行為が横行してしまう。

2. アンケート結果

アンケート種別		実施方法	実施・集計期間	ページ
			回答数(率)	
一般	来場者アンケート	トリエンナーレ会場の来場者へ配布、任意回答	8/15-8/28	P35-43
			2,134人	
	あいちトリエンナーレ2019に関する広聴	愛知県庁Webサイトへ掲載し、メールまたはFAXで回答	9/10-10/7	P44-61
1,253人				
インターネットリサーチ	民間調査会社へ依頼し、モニタ会員を対象に実施	9/13-9/16	P62-68	
		1,256人		
アーティスト	国内アーティストアンケート	あいちトリエンナーレ2019国内アーティスト※を対象に実施	9/10-10/7	P69-79
			15組/45組 (33.3%)	
	海外アーティストアンケート	あいちトリエンナーレ2019海外アーティスト※を対象に実施	9/10-10/7	P80-95
			12組/38組 (31.6%)	

- ※・アーティストアンケートの対象者から、「音楽プログラム」及び「パフォーミングアーツ」の参加アーティストを除外。
 ・上記の種別以外に、表現の不自由展実行委員会が独自で実施したアンケートがあったが、取りまとめ結果については、提供されていない。

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>1. 展示に関するもの</p>	<p>○中止されている展示の再会を望みます。がんばってください。冷静さを欠いた人の大声を気にし過ぎないでいただきたいです。世界中の人々が応援している道義なので。</p> <p>○表現の不自由展を「やる」となった時点で、このようなことが起こることは想定内だったと思います。芸術監督が「表現の自由」を考える契機にするはずだったアートが、変な方向で取り上げられ、無関心な人々に「考える」を与えられていないことが非常に残念に思います。一体なんのためにスタッフや芸術監督が苦しめられ、何が議論されているのか、さっぱりわからない。モヤモヤしか生んでいない。絶望しかないよ、このままじゃ。</p> <p>○検閲への抗議として海外アーティストの作品が展示辞退されたこと。非常に残念。会場の「安全」は保証されるべきであり、こうした抗議の表明は残念に思った。作家らは来場者や職員が犠牲になる可能性も視野に入れるべきである。「テロに屈するな」とは、長らく平和を保ってきた日本(そのために築かれた文化的背景)を無視している。そのような強い反骨精神を市民レベルに求めるのは酷である。作家らにはもっと別の方法で抗議にあたってほしかった。</p> <p>○表現の不自由展の再開を希望しています。他の展示もどれもすばらしい。今のところ移民関係のテーマが目立ち興味深く思いました。</p>	<p>○これまでで一番つまらなかった。良い悪いにかかわらず、ジャーナリズム色が強すぎる。現代美術を純粹に楽しめるトリエンナーレをお願いします。</p> <p>○2回目の記入です。20日からまた展示取りやめの作品が増えました。フリーパスを購入してたくさん通って作品を鑑賞しようと思っている観客は置き去りです。こんなこといいのでしょうか？金返せ！！8/18現在のトリエンナーレの状況①「表現の自由」も担保されていない芸術祭として世界へ広まる←あいちの恥！②案の定、韓国慰安婦団体に情報を切り取られプロパガンダに利用される。←こんな予想できるだろ。③参加したアーティスト、協賛企業にも多大な迷惑を掛けることになっている。←イメージダウン④芸術監督、知事をはじめ「慰安婦像展示は知っていたけど止められなかった」と言い訳&責任転嫁の応酬←どうでもええわ。今世界へと広まっている情報を早く精査せよ！！⑤3年後トリエンナーレ不開催(中止)の可能性大←どう責任を取るつもりなのか？！！「表現の不自由展、その後」の開催にいたった経緯を(犯人探し)をするのは結構だが、今やるべきことは世界に発信されている間違った情報を早く訂正し、3年後トリエンナーレを必ず開催できるよう軌道修正してください。皆のアンケートも掲示して欲しい。よくこんな危機管理能力のないメンバーで「表現の不自由展、その後」なんて企画できると思ったな！！トリエンナーレ好きの、愛知県民として情けないです。</p>

(注) 個人名は役職名としてあります。

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
(1. つづき)	<p>○まず男女同数のとりくみはすばらしいです。(そもそも当たり前にするべきことではありますが)実際に回ってみて、いかに普段男性作家のものばかりみているか、または女性作家がいても個々の作家性というよりは”女性らしいテーマ選択”がなされた作品ばかりみているか気がつきました。システムとしてのジェンダーの問題を解消しようとしているので、見る側の居心地の悪さもなく、気もちよく見られた。こうした方針はぜひつけてほしい。</p> <p>○今回のような切り込むテーマは今の、特に日本において必要な存在と思います。良くも悪くも話題となっていますが、私は全面的に支持します。アートの存在価値を、時間をかけて受け止めてもらえる場として、不理解に負けないでほしいです。応援しています。</p> <p>○「表現の不自由展」再開して欲しい。初日に見ましたが、3日間で見た人は限られるはず。現場を見ないで偏った意見が一人歩きしている状態だと思う。</p> <p>○やはりなんといっても中止された展覧会の再開です。せめて中止をめぐっての企画(議論)をする責任があります。全体のコンセプトがすぐれているだけに残念です。</p>	<p>○表現の不自由展・その後たった3日で中止になりショックだ。パスも買ったのに(だまされた感じがします)見たくない人は見なければ良いお金を出して見たい人さえも見られないなんておかしい!</p> <p>○左にばかりかたよらない内容を期待している。</p> <p>○県として恥ずかしくない内容を期待している。</p> <p>○観客が意見を交換する場がもっとあると良い。また、トリスクは今回作家の登場や芸術領域の人が少なかった気がする。全ての作品を見ることができるよう。</p> <p>○表現の不自由展が中止になってしまったのは残念ですが国内外から表現の自由とはどういうものかという論点を出すことが出来たことで少しは発表されたのが良かったと思います。</p>

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他の地域のトリエンナーレより、社会性のある作品が多くある印象だが、それが良いと思っている。展示を観ることで社会的なテーマに興味を持てることはとても面白い。 ○表現の不自由展、難しいと思うが、再開できるといいな。訳も知らないでさわぐ人が多すぎるように思う。見てから考えたい。 ○「表現の不自由展その後」の展示中止がとても残念です。アートは現実の社会問題に対して戦う手段であると思います。そのアートが圧力に負けてしまったのは今後の表現の自由にとって、とても悪い影響になると思っています。 ○世間の批判に負けず、どんどん社会性、話題性ある作品達を展開してほしいと思います。 ○現在中止になっている作品が見られるようになることを強く希望します。政治的側面ばかりが報道されているが、感じ／議論する／場を／機会こそ守れるべきだと思います。 ○今回の問題は「表現の自由」に関するのではなく、「公権力の不当な行使」と「民主的な議論を理解しない者の幼稚な圧力」です。ぜひ次回もすばらしい芸術祭を開いてください。 	

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○今回は何につけても表現の不自由展になってしまいます。はやく見ておこう！と思っていたのです。ベリこみセーフで前回見ることができました。別に韓国がどうのということではなく、ただ隠されているもの、見るできないものを見たいという興味でした。他の来場者たちも淡々と見ていて、なんていうかとてもフツーでした。なので、世間が騒がしいことの落差が大きくてびっくりです。作品も特にとりたてて何がダメなのかよくわからず、こんなものがダメなのかと知って、気持ち悪いなあと思いました。</p> <p>○現在は閉鎖されている「表現の不自由展・その後」に関して展示のコンセプトを理解し、同意した上での入場など、何らかの条件つけても構わないので、どんな展示だったのかを観てみたい。と一人の県民として思います。(来場前に閉鎖されてしまったので)。</p> <p>○作品を見もしないで卑劣なネットでの攻撃をする人々に屈しないでほしい。悪いのはその人達なのだから。</p> <p>○まずは今回の事件で、萎縮することなく自由な表現を発信することを望みます。実行委員会は毅然とした対応をしていただき行政、当局が干渉せず鑑賞する側に立っていただきたい。</p>	

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
(1. つづき)	<p>○表現の不自由展の再開:あのような圧力に屈したの は正直恥だと思う。とにかくどう収集をつけるのか、 市民や客に説明が欲しい。表現者ならば展示しな きゃ。覚悟が足りないですよ。再開を切に希望します。 他の出品者も注目していますよ。</p> <p>○社会に受け入れられるか否か、印象に残りやすいか 否かではなく、社会に真に有益かつ、見逃されがち であったり、ともすれば目を背けてしまうような問題を すくい取るような展示を楽しみにしています。</p>	

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>3. キュレーションに関するもの</p>		<p>○実際に展示を見て、内容は良いがわかりづらいトリだった。作品説明がなさすぎる。日本語訳がない。そして展示中止に対しての対応の悪さ。わかりきったことを何故、想定できなかったのか。理解しかねる。あと、芸術監督は最悪。ツイッターでのつぶやきにからみすぎ。気持ち悪い。何故、個人のおつぶやきにそこまで反応するのか。あと、写真×のところであつていてる人に注意をしない。人がいるイミがない。しかもあつていた人は(おそらく)作家の人とあつていたので、関係者の知り合いっぽい。(ゲスト札かけてたし)そういう意味でも今回は最悪という他ない。展示のメッセージ性等よかつたのに残念なことこの上ない。次回やる際には、見る人にも優しい展示を願う。チケットは前のシステムにもどしてほしい。今回は改悪ばかりでしたね。</p>

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>4. 関係者への批判</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○知事が表現の自由について、きちんと見解を話して下さったこと、忘れません。テロのような脅迫に負けないで下さい。 ○主催者のご苦勞に敬意を抱いています。 ○ツイッターをやっている人はある程度情報入るけれど、芸術監督は、もっと前に出てきてください。直接声が聴きたいです。 ○表現の自由が脅かされている事、強い危機感を感じています。知事の発言に賛同します。 ○公費で寛容な展示は必要！金は出すが口は出さないことは覚悟しているか大切。今回の件は教科書検定の思想につながる。為政者が不都合なことに口出しするのも当然だが、愛知県知事ががんばれ。 ○少女像を含む、表現の不自由展の中止が残念です。持ち物検査や警備を厚くすることで中止する必要はなかったし、今回のコンセプトを考慮した場合、テロ予告に屈するべきではなかった。ただ名古屋市長や大阪府知事に対する愛知県知事の対応はまともでした。支持します。 ○表現の自由とは何かに一石を投じたことを奇貨とし、何らかのステイトメントなり、シンポジウムなりと持続的につづけてほしい。実行委員の対応は支持します。いろいろと大変でしたでしょうが、すばらしい展覧会をみせていただきありがとうございました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○過去の3回と比べると印象に残った作品は正直ありません。今回はジャーナリストの方が芸術監督なので作品もアートを楽しむものではなく、作家の思想や考えなど(特に社会の批判的なこと)が色濃く出すぎていたように思います。もっと見てハッピーになれるものもいいです。 ○勿論、名古屋市長による「検閲」。このような人間が文化の薫り高き国際都市、名古屋に君臨していることが寒々しいばかりだ。 ○維新や名古屋市長のような歴史修正主義に反対する声も多いと思います。検証委の副座長は、副座長にふさわしくないと思います。 ○表現の不自由展(韓国少女像展示)が炎上するのはあたりまえでやるまえから分かりきっていた。知事はおかしい、名古屋市長は正常。 ○反戦メッセージが強すぎる大切なこととは理解できるが、かたよりすぎていると思う。以前は素晴らしい方の参加が多かった。今回はイマイチ、映像でのごまかし多すぎ。芸術監督は間違いだったと思う。会期後の会見を期待する。 ○パンチの効いた展示物を増やして欲しい。しかし、行うなら事前のパブリックコメントの時間を半分取ること。左右バランスを取るキュレーターの起用等、公共展示会にふさわしい順序で実施するべきだと思いました。

来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(4. つづき)</p>	<p>○今回の問題は「表現の自由」に関するのではなく、「公権力の不当な行使」と「民主的な議論を理解しない者の幼稚な圧力」です。ぜひ次回もすばらしい芸術祭を開いてください。</p> <p>○「表現の不自由展・その後」が開会后わずか3日で撤去されなければならなかったことに悲しみと憤りを感じます。芸術監督を強く推します。バランス感覚の良さが、今日の人出、ファミリーが訪れて館内には爆音も響き、強制的な共感に晒されました！ネトウヨか何かわかりませんが、愉快犯のおかげでこのように大きな事態となり、それがまた宣伝効果となる皮肉。まさに現代アートを浴びたなあと思います。</p>	<p>○表現の不自由展・その後の実行委員の方々を追放すべきだと思います。混乱の責任は彼らにある。</p>

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果のまとめ

実施方法 愛知県庁Webサイトにアンケート様式を掲載し、メールまたはファックスにより回答受付。

実施期間 2019年9月10日から10月7日まで

回答者数 1,253人

調査項目 ○ 性別、年齢、お住まいの地域

- I 1 あいちトリエンナーレに行ったことがあるか
- 2 (行った方のみ)あいちトリエンナーレ2019全体についての印象
- II 1 「表現の不自由展・その後」の展示を見たか。(展示を見た方のみ)見た感想
- III 1 「表現の不自由展・その後」の趣旨について、どう思うか
- 2 作品の選定について、どう思うか
- 3 展示が3日間で中止になったことについて、どう思うか
- 4 今後の展示のあり方について、どう思うか
- 5 【自由記載】県やトリエンナーレ実行委員会の情報公開や説明などについての意見
- IV 公立美術館の役割について、思想や知識も含めて自由に展示することについてどう思うか
- V 【自由記載】今までの展示や今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体についての意見
- VI 過去1年間の文化芸術の鑑賞状況

[アンケート票]

送付先：あいちトリエンナーレのあり方検証委員会事務局
 メールアドレス triennale-kenshou@pref.aichi.lg.jp
 FAX 052-972-6075、052-961-1310

あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート

該当するものに、してください。

- 性別
 男 女 その他 無回答
- 年齢
 10代未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- お住まいの地域
 名古屋市内 名古屋市以外の愛知県内 愛知県外(海外含む)

I あいちトリエンナーレについてお尋ねします。

- 1 あなたは、今まであいちトリエンナーレに行ったことがありますか。
 行ったことがある方は、行った回全てにしてください
 第1回(2010年) 第2回(2013年) 第3回(2016年) 第4回(2019年)
- 2 あいちトリエンナーレ2019に行った方にお尋ねします。
 あいちトリエンナーレ2019全体について、どのような印象を持ちましたか
 とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

II あいちトリエンナーレ2019の国際現代美術展内の一企画「表現の不自由展・その後」についてお尋ねします

- 1 「表現の不自由展・その後」の展示を見ましたか(8/1~8/3の3日間、公開されていました)
 見た 見ていない → IIIへ
 ↓
 展示を見た方は、見た感想にしてください
 とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

III 「表現の不自由展・その後」の展示について、皆さまにお尋ねします

- 1 展示の趣旨について、どう思いますか
 賛成 反対 どちらともいえない

【展示の趣旨】

(引用元「あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」
<https://aichitriennale.jp/artist/after-freedom-of-expression.html>”)
 「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかと強い危機意識から、組織的検閲や付度によって表現の機会を奪われてしまった作品を集め、2015年に開催された展覧会。「慰安婦」問題、天皇と戦争、植民地支配、憲法9条、政権批判など、近年公共の文化施設で「タブー」とされがちなテーマの作品が、当時いかにして「排除」されたのか、実際に展示不許可になった理由とともに展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に加え、2015年以降、新たに公立美術館などで展示不許可になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。

- 2 作品の選定について、どう思いますか
 とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

- 3 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営の確保が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか
 中止は当然 中止はやむを得ない 中止すべきでなかった 分からない
- 4 今後の展示のあり方について、どう思いますか
 再開したほうが良い 中止のままで良い どちらともいえない
- 5 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について改善すべき点があれば御指摘ください

IV 公立美術館の役割についてお尋ねします

あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにしてください
 絶対に必要 どちらかといえば必要 どちらかといえば不適切 適切ではない どちらともいえない 分からない

V 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について御意見があれば、御自由に記載してください

VI あなたは過去1年間にコンサートホール、劇場、映画館、美術館、博物館等で、どの分野の文化芸術を鑑賞されたことがありますか。あるもの全てにしてください

- 音楽 美術・写真 演劇 ダンス 映画 アニメ・漫画
 歌舞伎などの古典芸能 落語や漫才などの話芸 歴史的な建物や遺跡
 鑑賞したことがない その他

〔Web画面〕

[利用について](#)[読み上げ・ふりがな](#)[白](#) [黒](#) [青](#)[標準](#) [拡大](#)[言語を選択](#) ▼[組織でさがす](#) >[カレンダーでさがす](#) >[目的でさがす](#) >

[ホーム](#) [くらし・安全・環境](#) [観光・文化・スポーツ](#) [健康・福祉](#) [教育・子育て](#) [しごと・産業](#) [県政情報](#)

[ホーム](#) > [組織でさがす](#) > [文化芸術課](#) > [【あいちトリエンナーレのあり方検証委員会】アンケート調査を実施します](#)

【あいちトリエンナーレのあり方検証委員会】アンケート調査を実施します

掲載日:2019年9月10日更新

あいちトリエンナーレ2019に関するアンケートについて

あいちトリエンナーレのあり方検証委員会では、あいちトリエンナーレについて、県及びあいちトリエンナーレ実行委員会等の関係団体における企画、準備、実行の体制、公金を使った芸術作品の展示、芸術活動への支援、開催時の危機管理体制、対外コミュニケーション等のあり方を、客観的・専門的見地から総合的に検証を行っているところです。
この度、「あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート」を実施いたしますので、ご協力賜りますようお願いいたします。

1 アンケートの目的

あいちトリエンナーレ2019の企画の1つ、「表現の不自由展・その後」について、展示の趣旨や作品の選定、展示が中止になった経緯等について、県内・県外を問わず個人の方にご意見いただき、今後の参考といたします。

2 対象

県内・県外問わず個人

3 回答方法

様式をダウンロードしていただき、各項目を記入の上、「4 提出先」のメールアドレスまたはFAXあてにご提出ください。

[アンケート様式 \[Excelファイル/55KB\]](#)

※ファックスでの回答の方は[こちら \[PDFファイル/252KB\]](#)をダウンロードしてください。

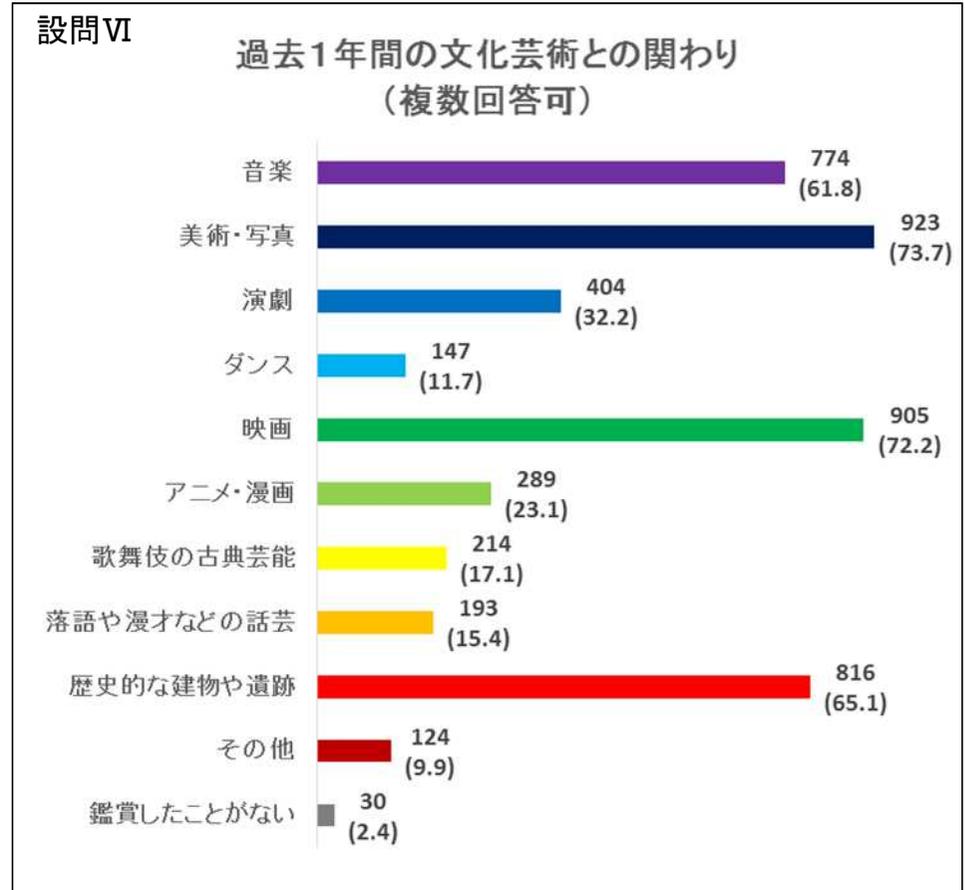
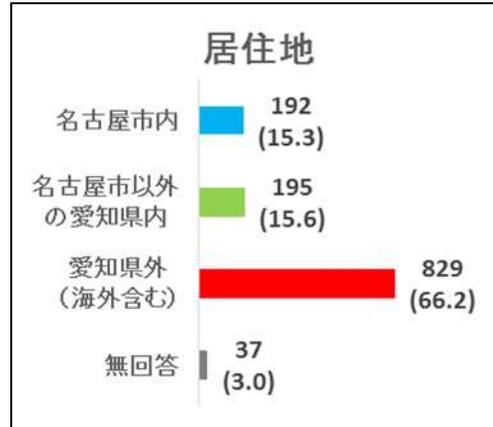
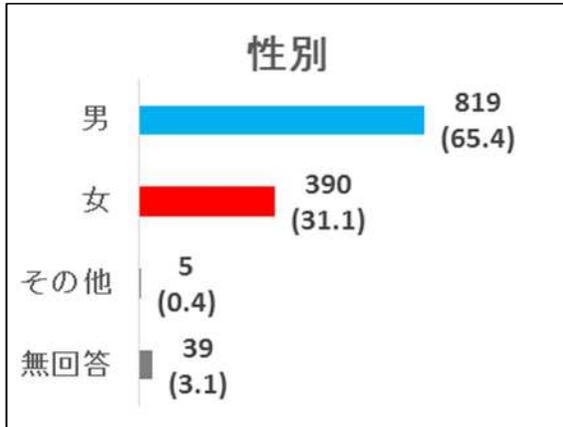
4 提出先

あいちトリエンナーレのあり方検証委員会事務局
メールアドレス: triennale-kenshou@pref.aichi.lg.jp
ファックス: 052-972-6075、052-961-1310

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果のまとめ

(人, ()内は%)

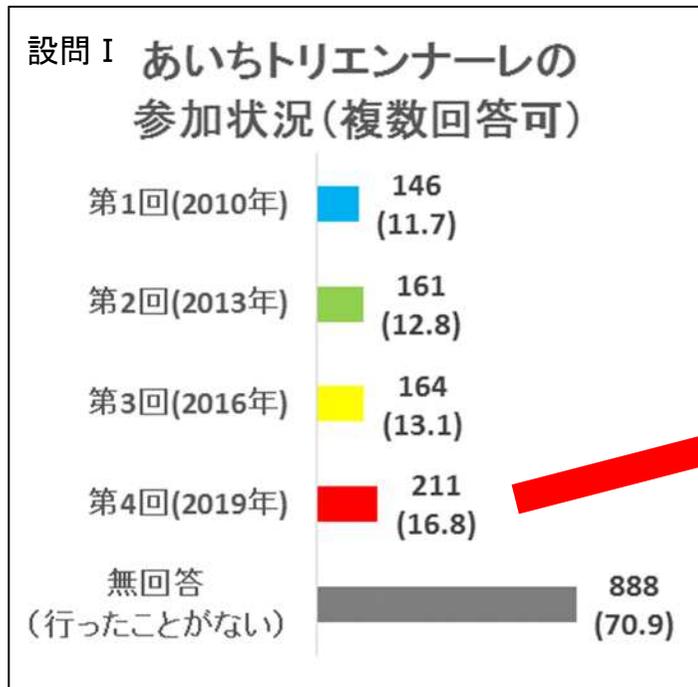
回答者の概要



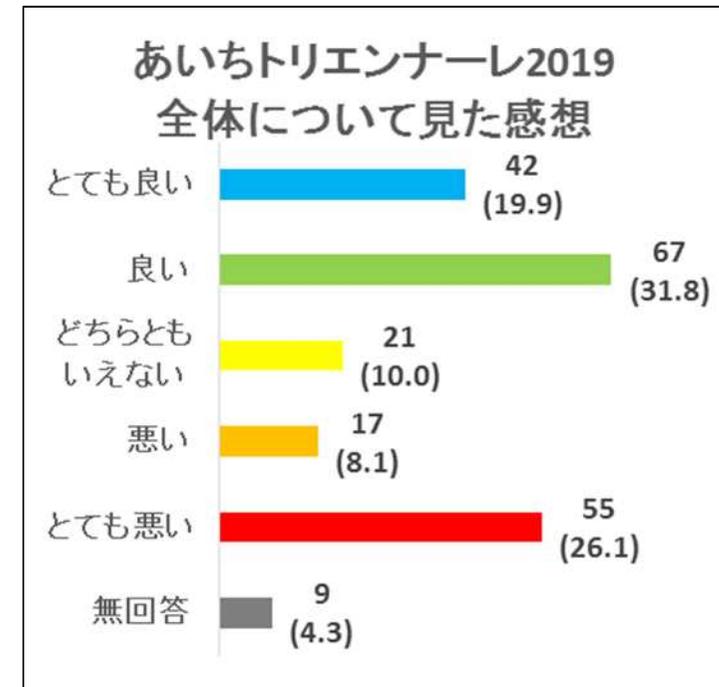
(注) 構成比(%)は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。次頁以降も同様。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果のまとめ

(人, ()内は%)

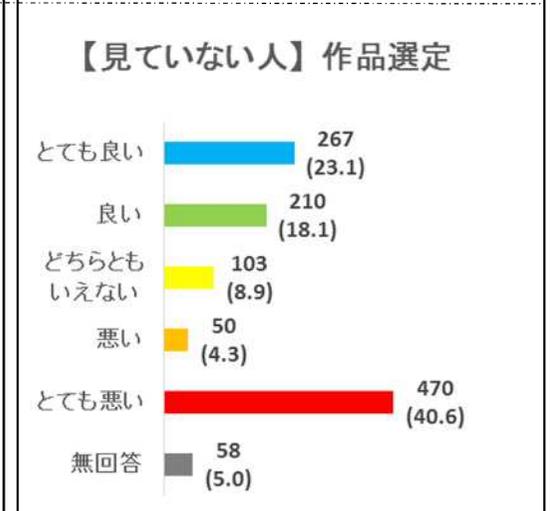
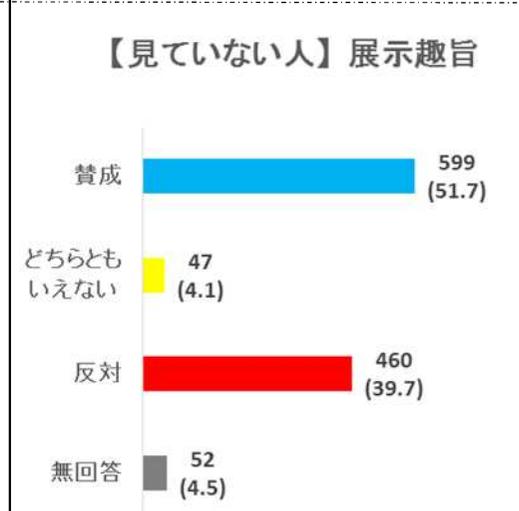
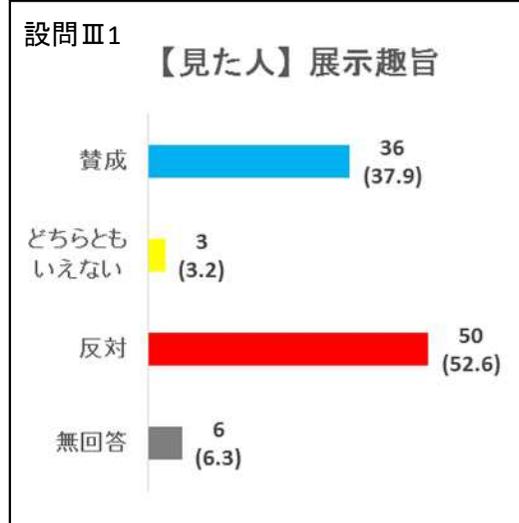
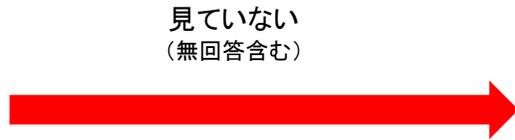
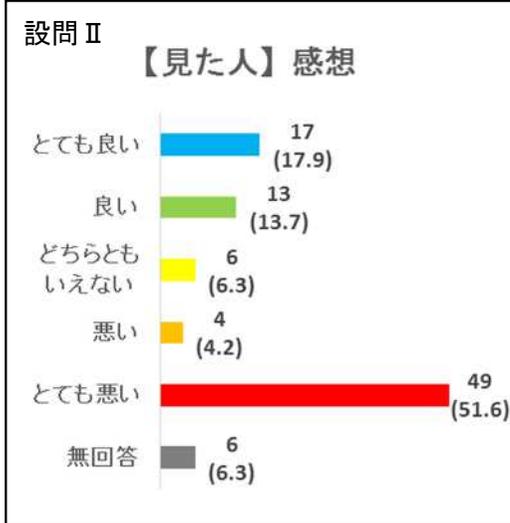
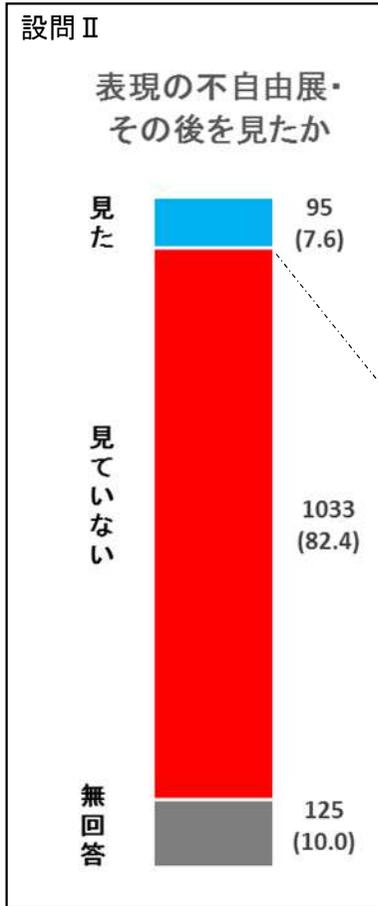


第4回(2019年)を見た人



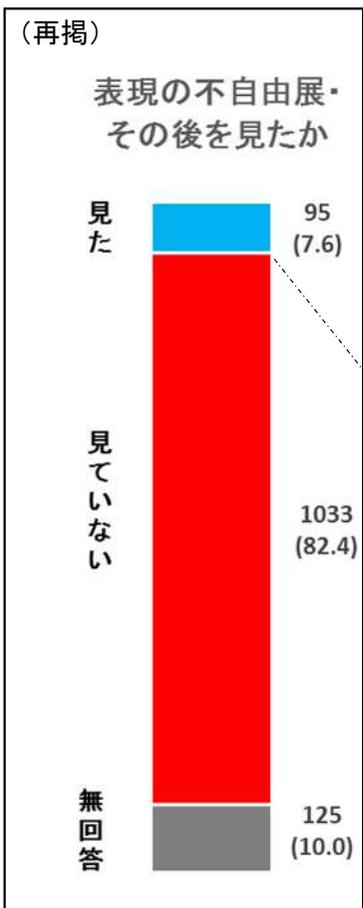
あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果のまとめ

(人, ()内は%)



あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果のまとめ

(人, ()内は%)

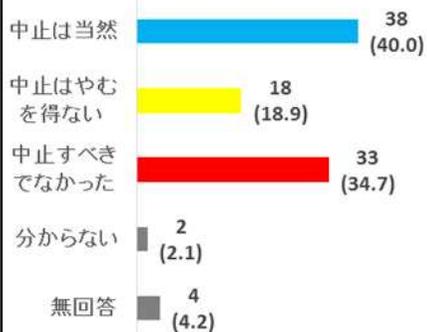


見た

見ていない
(無回答含む)

設問Ⅲ3

【見た人】中止判断

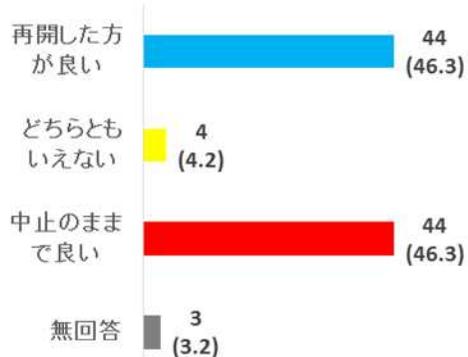


【見ていない人】中止判断



設問Ⅲ4

【見た人】今後のあり方



【見ていない人】今後のあり方



設問Ⅳ

【見た人】公立美術館が
思想や知識も含めて自由に展示



【見ていない人】公立美術館が
思想や知識も含めて自由に展示



あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
1. 展示に関するもの	<p>○めったに見る機会のない作品を実際に見ることができた。日本での美術を取り巻く状況について知ることができた。</p> <p>○見に行ったのは、ちょうどコスプレの国際的催しがあった日。私のような高齢者にはコスプレなんて抵抗もあったが、参加者の皆さんが自由に楽しそうにしているのを見ると、なんかこちらも楽しくなってきた。もちろん人によって好き嫌いはあるであろうが、人々が自由に思うところを表現できる世界のなんと伸びやかなことか。改めて表現の自由というものの大切さを展覧会とコスプレを通して考えることができた。</p> <p>○「表現の不自由」にフォーカスする展示であれば良かった。エロ、グロ、政治色の強いもの(左右問わず)・・・それらを集めた展示であれば良いものになったであろう。しかし、今回は一方的な考え方を行えば大問題になることは初めから予想できたはず。実行委員会、事務局の見通しの甘さが露呈した結果になった。</p> <p>○ここだけは混雑していましたが、やはり係員の対応は丁寧でした。展示されている作品も考えさせられる内容で、見られて良かったです。これら作品が見られない世の中になってしまっていることにショックを覚えました。</p> <p>○表現の自由について考えるきっかけになった。時間において、もう一度見てみたかった。作品の趣旨や過去に展示不許可になった理由などが、もうちょっと分かりやすい文章で記載されているとよかった。</p>	<p>○表現の不自由展は＝反日展示会と言う感想しか無く、大変驚きました。</p> <p>○芸術を履き違えた人間が選んだ自由偏向な展示でしかない！！良い点など無い！</p> <p>○あまりの酷さに反吐が出た。左翼のプロパガンダに過ぎないものを芸術とうそぶくとは、公費でこんなものを展示するとは許されることではない！そんなに見せなければ私費でやればよい！</p> <p>○国民の心の琴線をズタズタにする展示物は醜悪そのもの。芸術ではなく、明らかに反日プロパガンダである。</p> <p>○思っている以上に酷かった。日本人の気持ちを逆撫でするものばかりでとても不愉快。</p> <p>○芸術の名を騙った明確な反日プロパガンダ。日本人として到底容認出来るモノでは無い。</p> <p>○表現の自由にも制限はある。まして税金を投入したイベントは公金の不正投入である。</p> <p>○表現の自由を盾に偏った主義の人達が好き勝手しているだけの印象。あれを芸術ととらえたのなら今後トリエンナーレは開催しないでいただきたい。</p> <p>○実行委員会は作品を「アート」としてではなく、政治的プロパガンダとしか扱っていないのではないかと受け取れた。</p> <p>○朝鮮人の日本に対する間違った認識を正当化してはいけません。</p>

(注) 個人名は役職名としてあります。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○政治的表現が取り上げられるのは世界的芸術祭の潮流としてごく当然なことである。また、扱われている作品のいくつかは自国批判としてとても強度があり、良作だった。 ○大変良い展示だと思った。社会の中で「表現活動」がはたす重要な役割をあらためて認識させられた。 ○今の社会が抱えている問題を象徴するような作品群に、改めて社会の矛盾や解決すべきことがあるのだということがよく分かった。 ○それぞれの作品はもともとコンセプトやテーマが異なるが、権力や社会の抑圧への姿勢が観れるものが多かった。とはいえ、その全ての作品に賛同するわけではないので、全部が自分にとって「いい作品」なわけではない。やはり攻撃的に見える展示ではあるので、もしトリエンナーレ全体がこうだったら好きになれないが、一つの展示としてみるには許容範囲だと思う。展示自体のテーマは面白いと思った。 ○「その後」とされていることで、色々な視点から議論ができるというコンセプトが良いと思った。 ○見ることを拒否された展示の内容が解ったから。日本で「慰安婦像」とされる作品が本当は「平和の少女像」であることを初めて知ったし、最近の報道では日本政府が決めた標題ではなく正しい標題で報道されるようになったことは嬉しい。警備を強化して早く再開して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の自由の名を借りた、単なる反日ヘイト。しかも、展示前からネットで「炎上を予想」していた非常に悪質な内容。 ○日本を貶める物を芸術などとは決して言わない。表現の自由という敬うべき憲法を悪用した。 ○反日プロパガンダ、天皇ヘイト、日本人ヘイトなど、見るに耐えない、反吐が出る！アンケートの作り方にも悪意がある！根本原因追究の意思が見られない！何故苦情がいっぱい来たのかについて調べよ！ ○不快でした。日本人へのヘイトだとか政治的思想が絡んでいるのではないかと考えてしまいます。先の逮捕者も出たり、炎上するのも当然かと思えますし、もし万が一テロが本当に起こって犠牲者等が出ってしまった場合は誰が責任をとるのだろう。また、何故これらの展示が事前に安全面を考慮し、自主規制又は説明等による周知が行われなかったのか疑問に思う次第です。 ○芸術を名乗れば何をやっても許されるという考え方が不愉快。特に政治プロパガンダを芸術と言ってはばからない精神を疑う。 ○一方的視点からの作品ばかり。慰安婦像を展示するのであれば、ライダイハンの像も並べて展示すべき。 ○平常な感覚を持つ日本人がこれだけ嫌悪感を感じる展示を公費使って開催はありえない。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(1. つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ○濃淡はあるが、全ての作品の表現・訴えに対して、共感・共鳴・理解、そして考える切っ掛けが得られた。 ○表現の自由について考えさせる意欲的な企画だったと思う。いわゆる少女像も実際に見て、作者の平和と人々の相互理解を望む気持ちが伝わった。 ○過去に展示を中止された各作品を実際に目の前で見る事ができました。展示を中止された理由が、合理と倫理の両方を欠いている事に驚き、深く考える事ができました。 ○こういう作品が見られたことはいい。平和の像についても、「どうしてこれが問題なんだろう」という方が多かったです。もっと多様な意見を言うことができるようにして欲しいです。3日以後、作者と語り合える場を作った作家もあるように聞きます。そういう場が持てるといいです。現代美術への鑑賞眼を多くの人がもてるようになるのではないか。 ○どれもまともな芸術作品だが、これらが展示できなくなる社会状況を考えさせる、日本社会に有用で重要な企画だった。 ○見る事ができて、とても良かったです。深く考えさせられました。不快に感じるという人もいるのかもしれませんが、なぜ自分が不快に感じるのかを自問してみる必要があると思います。展示の内容は素晴らしかったのですが、展示の方法にもう少し工夫があっても良かったかもしれません。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公金を使った反日本の政治活動であった。昭和天皇の写真を焼く行為は芸術でも表現の自由でもない。仮にこれを「表現の自由」というなら、私費でやるべきだし、両輪併記でバランスをとるべき。○「表現の自由」とは、本来は政治的党派性に左右されない人権であるが、反皇室、反日本の要素を多分に含む、政治的文脈で捉えられても仕方がない展示品に偏っていたこと。また展示品がかつて展示されなかった経緯の説明、次の問いの展示の趣旨にも現政権批判の意図が散見され、政治的に解釈されても仕方がない構成だった。 ○政治的プロパガンダであり、しかも表現の自由の範囲を超える非常識そのものである。 ○一言で言って品性下劣なヘイトスピーチと言うほかない。すべてではないが、少なくとも「遠近を抱えて」は悪質なヘイトスピーチである。 ○表現の不自由展において「芸術性の無い単なるプロパガンダ部材」が展示され不愉快であった。韓国の少女像や旭日旗をモチーフとした絵画等これらに芸術性はなく単なる反日プロパガンダである。これに私の愛知県民税が使われることは絶対に容認できない。 ○完全に政治プロパガンダと化し、芸術と思えなかった。 ○不自由展が、あいちトリエンナーレの本部のある所で展示や作品が許されたのは悪い点である。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(1. つづき)	<p>○作品の前で意見交換があったりして、さまざまに考えをめぐらせる場として、又、他者を排除しようとする世界の風潮の中で展示を排除された作品が集められた意義は大きいと思います。</p> <p>○展示ができなくなった作品はそれぞれに理由があり、その理由を考えながら作品が見られる体験がすばらしかったです。</p> <p>○少女の像は、事前に私が考えていたものと異なっていた。写真などで何度も見た少女像は怨恨がにじみでいたが、実物はあっけにとられるほど、小さい幼いかわいらしい少女像であった。私はこの像がある考え方に凝り固まった人々の象徴、プロパガンダにされてしまっただけだと思えてならない。韓国も不自由展の委員会も皆、この像を利用している。私は、もっと皆が実物を素直な目で見るといいと思う。だから、あいちトリエンナーレの試みは、すばらしかったのだろう。</p> <p>○いかに表現が不自由になっているか、現在の日本の状況が自治体の長の発言で、よく分かった。恐ろしささえ感じた。戦争前夜のような怖さ。</p> <p>○こんな展示までできないのかということをはっきりさせたことは評価できる。</p> <p>○初めて見る作品ばかりで、とても興味深かった。実際に作品を見る機会に恵まれ、幸運だった。ぜひ、会期中に再開して欲しい。</p>	<p>○芸術性が皆無の子供染みたチャチな作品だらけで、芸術の名を借りて行われた偏った思想のプロパガンダと見受けられた。</p> <p>○日本&日本人をおとしめる表現をして喜ぶのはだれ。日本人の税金で行う内容ではないと思う。</p> <p>○表現の自由には、例外がある事を考えて下さい。</p> <p>○表現の自由なら何を言ってもいいわけではない。記者会見した方々はまさに左寄りばかり。資料の提供は朝日新聞。意図がないと言われてもそう思えないことが問題。</p>

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
2. 昭和天皇の肖像や特攻隊に関するもの	<p>○見ることを拒否された展示の内容が解ったから。日本で「慰安婦像」とされる作品が、本当は「平和の少女像」であることを初めて知ったし、最近の報道では日本政府が決めた標題ではなく正しい標題で報道されるようになったことは嬉しい。警備を強化して早く再開して欲しい。</p> <p>○話題として扱われている天皇の肖像が燃えている映像作品の質は特別高かったとは思わないが、質の問題以外で(特にヘイトというような間違った認識で)非難を浴びるべきではない。</p> <p>○税金を使った展示会で日本国民の象徴である天皇陛下及び特攻隊員を侮辱した展示物があるのは適切ではない。天皇陛下がバーナーで焼かれる動画は、自分自身が焼かれ踏みつけられた気持ちになった。また、特攻隊の寄せ書きを使った展示物は戦争当時の兵隊が家族及び未来の子孫の為、日本を存続させる為に命を掛けて戦ったものであり、その行為を貶めることは許し難い。</p> <p>○昭和天皇の写真が燃える映像作品は見る者に考えさせる作品で、考えれば、それが単なる天皇への誹謗を意図したものではないことがわかる。刺激的な作品だった。</p>	<p>○あれを見て不快にならない日本人が信じられない。天皇陛下が焼かれて踏まれる、私の払った税金がこれに使われていると思うと悔しくて仕方なかった。過激すぎて人を激しく傷つけていますので、公的なお金を投入したイベントには極めて許しがたい展示である。検閲をいう言葉をしっかり理解して欲しい。</p> <p>○これは芸術ではありません。反日・反天皇政治活動です。良い点はありません。最悪です。昭和天皇のお写真も燃やし、その灰を踏みつける映像には、もう、言葉を失いました。愛知県はどうなってしまったのでしょうか？なぜこのような展示を認めたのでしょうか？愛知県民でいたくない気分です。</p> <p>○日本の象徴である天皇陛下を侮辱されて、私自身(妻も)、とても傷つきました。なぜ？私が払った税金を使って、私たちが傷つけられなくてはならないのでしょうか？是非、大村知事に説明いただきたい。加えて、さきの戦争で亡くなられた特攻隊の方々を侮辱した作品も到底、容認できません。これも是非、大村知事に何故？これらを展示したのか説明いただきたい。</p> <p>○公のイベントで陛下のご真影を燃やし、踏みつけるなど言語道断。また、戦死者を侮辱する物体にはひたすら嫌悪を覚える。せめて作品として作者が技巧を凝らし、心血を注いだ物ならば議論の余地もあろうが、あのような稚拙極まりないガキの落書きレベルの物体を公開するなど、人としての品格を疑わざるをえない。今回のイベントでは愛知県は勿論、日本の芸術の品位を疑う。</p>

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(2. つづき)		<ul style="list-style-type: none"> ○昭和天皇の後真影を焼くという暴挙。許せるはずもありません。ポートレートが焼かれたにすぎない？そんなものは詭弁です。実際に御真影を焼いているじゃないですか。 ○特攻隊員を冒瀆し、昭和天皇を貶める行為は、日本人の行為ではない。津田と東を選択した大村知事に多大の責任が有る。 ○日本以外の世界中の国で…自国の国王や国に対する名誉・尊厳を毀損させる行為を国・州・市の主催後援でもって発表させる芸術展なるものは無い。ましてや、国と国でもってトラブル関係となってる相手国の作家が芸術の名のもとで自由の名の美名で行うことは…更なる問題を生じさせる。(日本は、愛知県は…それほど、おバカであってはいけない！) ○昭和天皇への侮辱が酷く目に余るものばかりであった。また戦時英霊や米国、日本国自体を蔑む展示物には怒りの感情しか抱けませんでした。 ○天皇の御真影焼いて踏みつけるなど、悪意の塊。 ○主催者の一方的な判断で、不許可になったものを展示するという判断が、常軌を逸しています。特に天皇陛下個人、皇室への侮辱、特攻した英霊やアメリカへの侮辱ととられかねない物を展示するなど言語道断である。主催者は、自分や自分の家族が題材となり同じようなことをされたら、絶対に展示を許すはずがない。「組織的検閲や忖度」についても一方的な解釈である。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(2. つづき)		<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの未来のために命を懸けて戦った先人を貶める作品ばかりで大変不快だった。天皇陛下の写真を焼き払う作品のどこに芸術性があるのか主催者の芸術監督と知事に問いたいただきたい。 ○昭和天皇の御真影をバーナーで燃やし、更に土足で踏みつける映像。これのどこが芸術なのか？作者に問いたい。貴方はヨーロッパでローマ法王の写真を燃やしたり、イスラム諸国でクルアンの教典を燃やす映像を展示できるのか？ ○日本の象徴である天皇が燃やされ、足蹴にされているモノが芸術とは日本国民を愚弄しているのか？国の為に散っていった特攻隊の寄せ書きに「間抜けな日本人の墓」とは、表現の自由でもなんでもありません。展示物は表現の不自由でもなんでもなく、常識に照らし合わせて展示すべきではないものです。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>3. キュレーションに関するもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○問題点を掘り下げて、一部、細かな資料なども閲覧できるようになっていて、非常に勉強になった。 ○展示の内容は理解できたが、キュレーションが下手だなと思った。バランスが悪かった。 ○「その後」とされていることで、色々な視点から議論ができるというコンセプトが良いと思った。ただ、他の展示に比べて会場が狭かったのが残念。窮屈な感じであることも展示上の演出なのかもしれないが、もう少しゆとりのある展示の仕方、一つ一つの作品をじっくり見られるようにしてほしい。 ○問題点を掘り下げて、一部、細やかな資料なども閲覧できるようになっていて、非常に勉強になった。 ○他の展示に比べて会場が狭かったのが残念。窮屈な感じであることも展示上の演出なのかもしれないが、もう少しゆとりのある展示の仕方、一つ一つの作品をじっくり見られるようにしてほしい。 ○大浦さんの作品は、一部のみを見て誤解してしまうことがないように、奥の気合百連発の辺りや、伊藤ガビンさんの作品のようなスペースで映像を流すと良いと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○改善点：展示会場の狭さ、作品コンセプトや制作意図、非展示となった理由の説明などを観覧者に理解させるための配布資料が会場になかった。 ○8月3日に拝見しました。入場規制をしていたにもかかわらず、部屋の中は人が多く、個々の作品をじっくり鑑賞できる環境ではありませんでした。物理的な展示環境、芸術祭の運営という観点で、「悪い」と評価せざるを得ません。例えば、予約制にされてはどうでしょうか。 ○狙いは解らないでは無いが、キュレーションが無知。作品レベルとしては横尾さんを除いてはゴミにしか思えなかった。作家がアートと言えどアートなのかも知れないが、選定時にはじくべき。不自由展に関しては改善の余地は無い。 ○悪い点：不自由展のホームページはあいちトリエンナーレのメインサイトと切り離されており、入手しにくい情報となっている。(不自由展のリンク先もメインサイトに記載されていない。)歴史・社会的圧力をテーマに扱っているにもかかわらず、展示会場には作品と関わる資料が少ないように思った。 ○偏った政治的プロパガンダであること以上に、芸術の域に昇華されていないことが問題。 ○誰が対象であれ、亡くなった方のお写真を焼き踏みつけにすること、戦争で犠牲になられた方々への侮辱は芸術ではありません。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(3. つづき)		<ul style="list-style-type: none"> ○このような展示物が公開中止にされるということを知ることができた。但し、芸術祭でやる内容ではない。また、壁に貼ってあった年表が偏見に満ちていて酷い。 ○狙いは解らないでは無いが、キュレーションが無知。作品レベルとしては横尾さんを除いてはゴミにしか思えなかった。作家がアートと言えればアートなのかも知れないが、選定時にはじくべき。不自由展に関しては改善の余地はない。 ○狭いところに作品が多数あり見づらかった。8階、10階以外でも良かったのではないか。 ○展示のやり方が何も工夫されておらず、ただ、ただ押しつけ。どこか小さな貸画廊で行われている、安っぽい展示会だった。見る人に理解してもらおうと考えてない。 ○不自由展実行委員会内には、美術批評家・編集者などはいるが、キュレーションの専門家が不在だった事から、イデオロギー的な強い偏りや見せ方の不備があったように思います。不自由展実行委員会ではなく、トリエンナーレ実行委員会内のキュレーターがイデオロギーの第3者的・専門的な立場からイニシアチブを取り、見せ方などの工夫が必要だったように思いました。 ○会場が狭い。特に奥の展示室に至る極めて狭い通路で、映像など多くの展示を行っており、ゆっくり観ることが難しかった。

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
4. 関係者への批判		<p>○芸術監督の強い政治的な主張を感じました。これを芸術監督の私費で開催しているなら百歩譲って表現の自由だと容認できますが、公金が遣われているものに、反日色の強いもの。ましてや日本の象徴である天皇陛下を侮辱するようなものを展示したのが許せません。憲法第21条の前に、公金を使った表現を制限する12条があるのをご存知ですか？</p> <p>○これらの展示が、誰の指示で、誰の許可を得て展示されたのか、詳細を明らかにしてほしい。明らかに政治プロパガンダ。慰安婦像や昭和天皇を焼く展示は、どこの国でも許されるものではない。日本でなら何をやってもいいなどというのは、反天連の元NHKプロデューサーが委員会にいるからでしょうか。愛知県は展示内容を許可したことを謝罪し、関係者を処分すべき。</p> <p>○あいちトリエンナーレ2019において芸術監督の独断と暴走を放置したことは、重大な過失であると考えます。2. 芸術監督の独断と暴走を止められなかった他の開催者の職務に対する認識不足は深刻であると言わざるを得ません。3. 不明瞭な支出と不適切な選考があった場合の処分の不徹底も責任者に過失がある。</p> <p>○今回の展示に関わった方々は、全員辞職して下さい。無論知事まで含めてです。それくらいの反省の意思がないのでしたら、今後二度と開催しないで下さい。</p>

あいちトリエンナーレ2019に関する広聴結果 主な意見

	肯定的な意見	否定的な意見
(4. つづき)		<ul style="list-style-type: none"> ○今回無駄に使われた税金は、芸術監督と知事の2人に責任を持って支払ってもらい、穴埋めしていただきたい。 ○知事は、芸術監督さえ認めればあらゆる表現物を置くべきだと主張したが、正気を疑う発言だ。巷では、あらゆるヘイトスピーチ表現がまかり通っており、市民が抗議している事実を知らないのか。 ○日本をおとしめて、同盟国の大統領をバカにしています。税金でやったという事実は絶対に許せません。戦争に行って犠牲になった祖父を馬鹿にするような知事には弁償か辞任を求めます。このような展示を税金で行ってしまうトリエンナーレも次年度以降は中止にしてください。開催するなら選挙のように又は大阪都構想のように住民投票で是非を問うてください。でなければ知事は責任から逃げ、知事は納税者をツイッターでもブロックして独裁者になりたいのでしょうか。 ○表現の自由を主張するのであれば、私費で行うべき。公の場で展示をするのであれば、国民感情を無視する展示物は認められない。表現の自由を主張する芸術監督は、根本的に考え直すべき、大村知事は謝罪すべき。 ○この企画は、反日プロパガンダであり、日本に対するヘイトである。名古屋市長が開催負担金の不払いを検討していることに賛同する。もちろん文化庁からの補助金交付などあってはならない。知事が予定しているあいち宣言は不要である。知事と芸術監督は責任をとるべき。

インターネットリサーチ 調査概要

〔実施方法〕 民間調査会社へ依頼し、モニタ会員を対象にアンケートを実施

〔調査対象〕 東海4県(愛知、岐阜、三重、静岡)および東京に住む20～59歳の男女

〔調査期間〕 2019年9月13日から9月16日まで

〔有効回答数〕 1,256サンプル

(単位:人)

〔割付〕

		20代	30代	40代	50代	サンプル数
愛知県	男性	65	65	64	64	約500
	女性	65	65	64	64	
岐阜県	男性	14	14	13	13	約100
	女性	14	14	13	13	
三重県	男性	14	14	13	13	約100
	女性	14	14	13	13	
静岡県	男性	14	14	13	13	約100
	女性	14	14	13	13	
東京都	男性	52	52	52	52	約400
	女性	52	52	52	52	

インターネットリサーチ 調査概要

〔調査項目〕

あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート

選択肢記号の説明

- 複数選択 (チェックボックス)
- 単一選択 (ラジオボタン)
- 単一選択 (プルダウン)

Q1

あいちトリエンナーレについてお尋ねします。
あなたは、今まであいちトリエンナーレに行ったことがありますか。行ったことがある方は、行った回全てを選択してください。

- 1. 第1回(2010年)
- 2. 第2回(2013年)
- 3. 第3回(2016年)
- 4. 第4回(2019年)
- 5. 行ったことがない

Q2

あいちトリエンナーレ2019に行った方にお尋ねします。
あいちトリエンナーレ2019全体について、どのような印象を持ちましたか。

- 1. とても良い
- 2. 良い
- 3. 悪い
- 4. とても悪い
- 5. どちらともいえない

Q3

あいちトリエンナーレ2019全体の良い点、改善点、その他自由に記載してください。

Q4

あいちトリエンナーレ2019の国際現代美術展内の一企画「表現の不自由展・その後」についてお尋ねします。
「表現の不自由展・その後」の展示を見ましたか (8/1～8/3の3日間、公開されていました)

- 1. 見た
- 2. 見ていない

Q5

「表現の不自由展・その後」の展示を見た方にお尋ねします。
見た感想を選択してください。

- 1. とても良い
- 2. 良い
- 3. 悪い
- 4. とても悪い
- 5. どちらともいえない

Q6

「表現の不自由展・その後」の展示について良い点、改善点、その他自由に記載してください。

Q7

「表現の不自由展・その後」の展示について、皆さまにお尋ねします。
展示の趣旨について、どう思いますか。

- 1. 賛成
- 2. 反対
- 3. どちらともいえない

インターネットリサーチ 調査概要

〔調査項目（続き）〕

Q8

作品の選定について、どう思いますか。

- 1. とても良い
- 2. 良い
- 3. 悪い
- 4. とても悪い
- 5. どちらともいえない

Q9

展示の趣旨について、良い点、改善点、その他自由に記載してください。

Q10

「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営の確保が困難となったことから、展示が開催から3日で中止になりました。3日で中止になったことについて、どう思いますか。

- 1. 中止は当然
- 2. 中止はやむを得ない
- 3. 中止すべきでなかった
- 4. 分からない

Q11

「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方について、どう思いますか。

- 1. 再開したほうが良い
- 2. 中止のままが良い
- 3. どちらともいえない
- 4. 分からない

Q12

「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について改善すべき点があれば御指摘ください。

Q13

公立美術館の役割についてお尋ねします。

あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものを選択してください。

- 1. 絶対に必要
- 2. どちらかといえば必要
- 3. どちらかといえば不適切
- 4. 適切ではない
- 5. どちらともいえない
- 6. 分からない

Q14

今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について御意見があれば、御自由に記載してください。

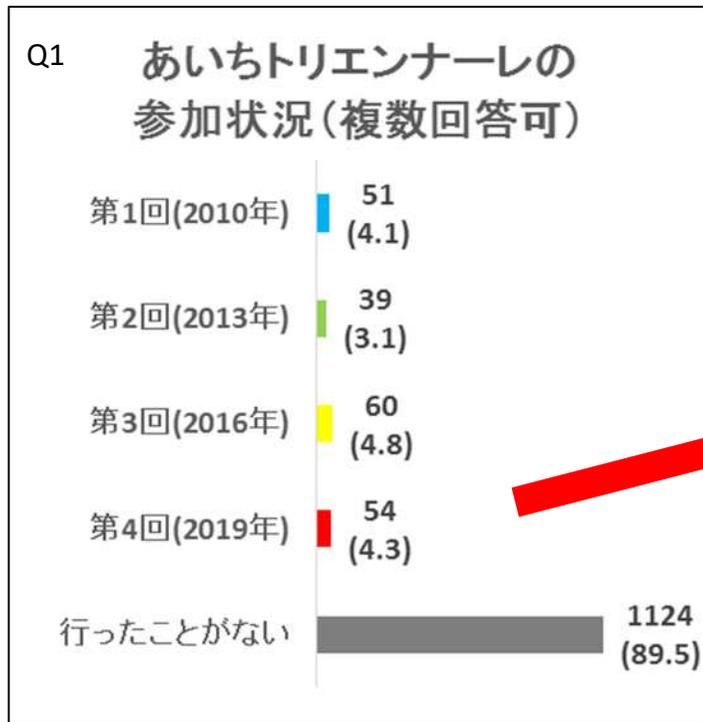
Q15

あなたは過去1年間にコンサートホール、劇場、映画館、美術館、博物館等で、どの分野の文化芸術を鑑賞されたことがありますか。あるもの全てを選択してください。

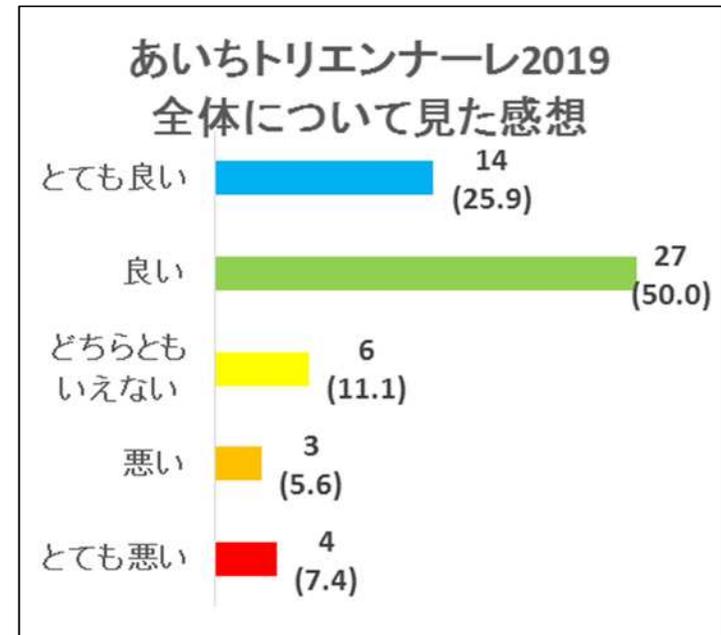
- 1. 音楽
- 2. 美術・写真
- 3. 演劇
- 4. ダンス
- 5. 映画
- 6. アニメ・漫画
- 7. 歌舞伎などの古典芸能
- 8. 落語や漫才などの話芸
- 9. 歴史的な建物や遺跡
- 10. その他【 】
- 11. 過去1年間でいずれも鑑賞したことがない

インターネットリサーチ 結果まとめ

(人, ()内は%)



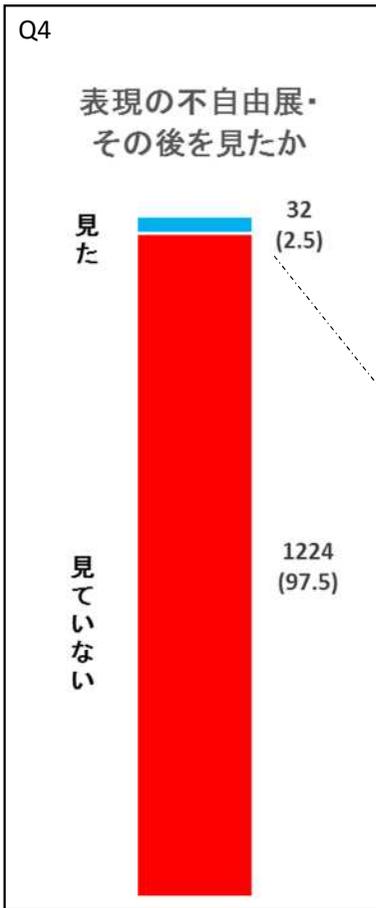
Q2 第4回(2019年)を見た人



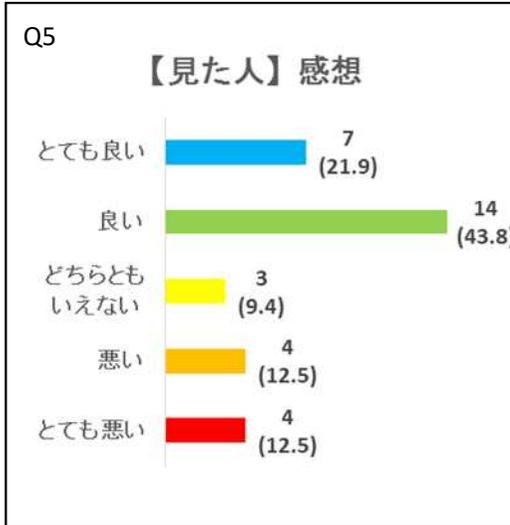
(注) 構成比(%)は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。次頁以降も同様。

インターネットリサーチ 結果まとめ

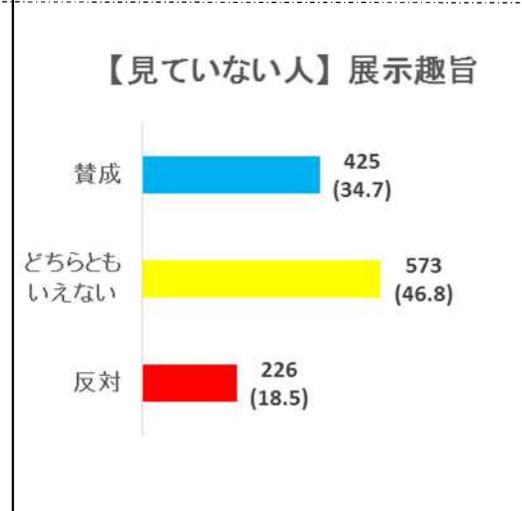
(人, ()内は%)



見た

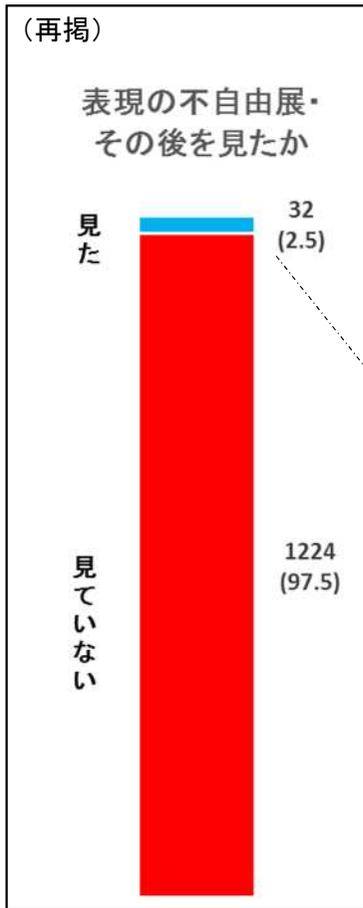


見ていない



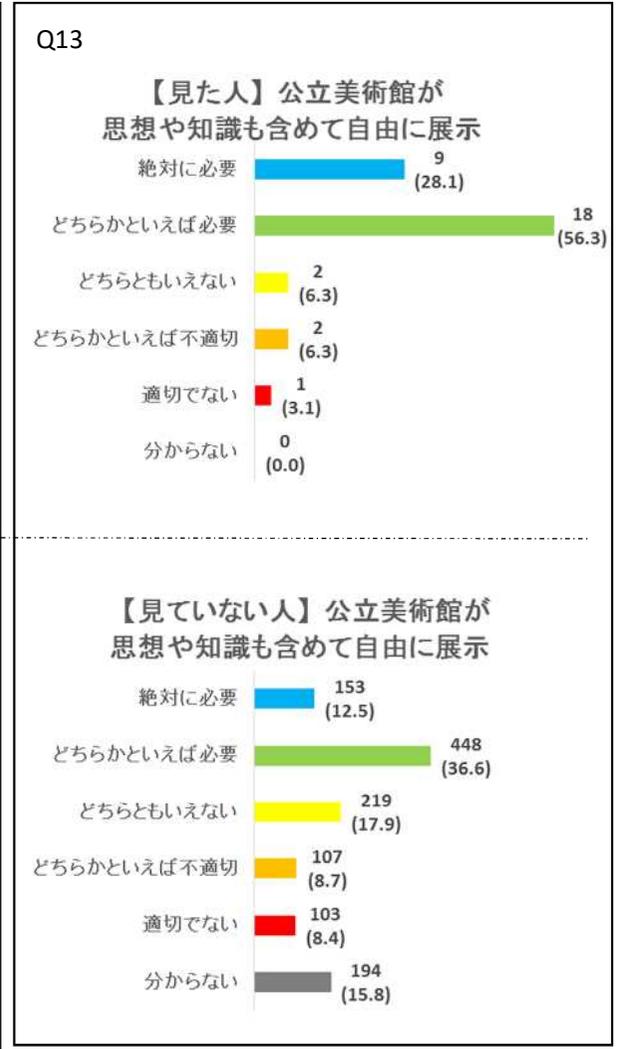
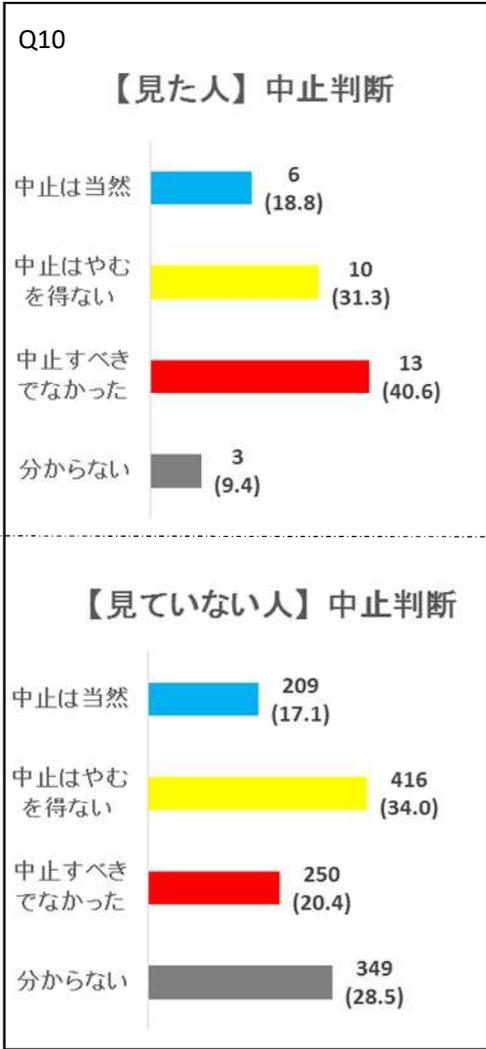
インターネットリサーチ 結果まとめ

(人, ()内は%)



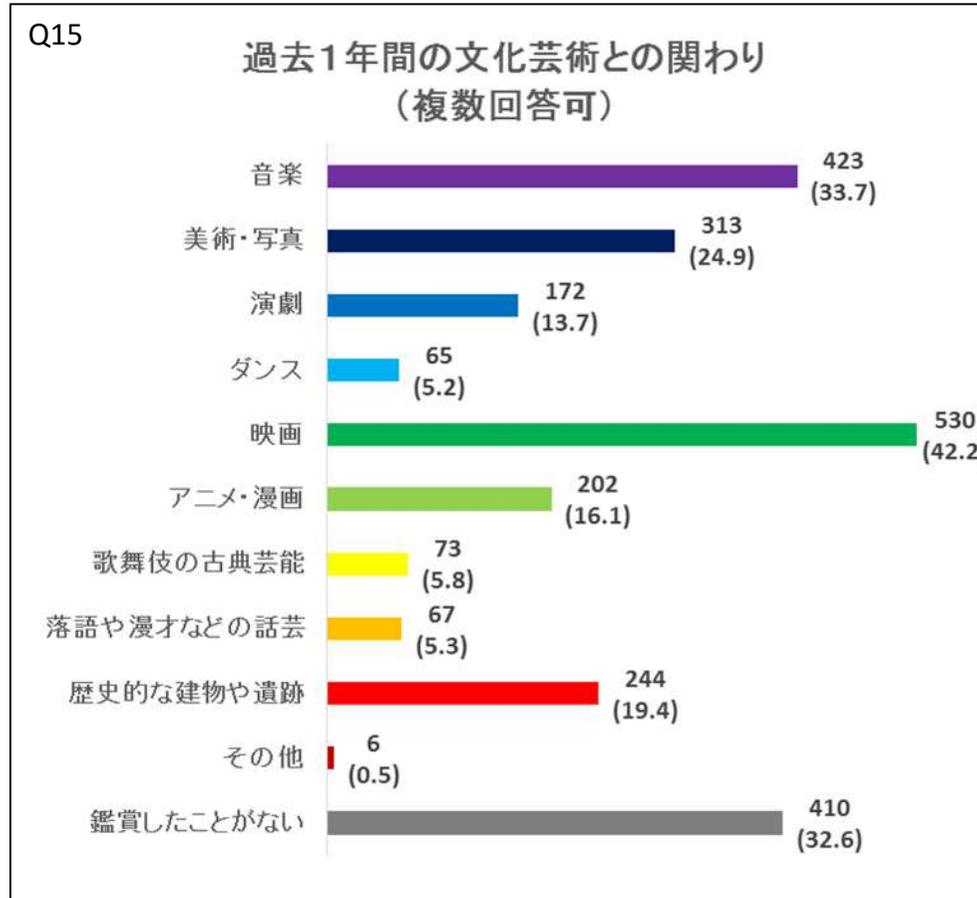
見た

見ていない



インターネットリサーチ 結果まとめ

(人, ()内は%)



国内アーティスト向けアンケート

実施期間: 2019年9月10日～10月7日

実施対象: あいちトリエンナーレ2019国内アーティスト(音楽プログラム及びパフォーミングアーツ参加アーティストを除く)

発送数: 45組 回答者数: 15組 回答率: 33.3%

調査項目:

【あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート】

該当するものに、してください。

I あいちトリエンナーレ2019全体について、どうでしたか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

II あいちトリエンナーレ2019の「表現の不自由展・その後」についてお尋ねします

1 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨についてどう思いますか。

賛成 反対 どちらともいえない

【展示の趣旨】(引用元“あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」 <https://aichitriennale.jp/artist/after-freedom-of-expression.html>”)

「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかという強い危機意識から、組織的検閲や忖度によって表現の機会を奪われてしまった作品を集め、2015年に開催された展覧会。「慰安婦」問題、天皇と戦争、植民地支配、憲法9条、政権批判など、近年公共の文化施設で「タブー」とされがちなテーマの作品が、当時いかにして「排除」されたのか、実際に展示不許可になった理由とともに展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に加え、2015年以降、新たに公立美術館などで展示不許可になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。

2 「表現の不自由展・その後」の展示方法についてどう思いますか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について、どう思いますか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

調査項目：

4 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか。

中止は当然 中止はやむを得ない 中止すべきでなかった 分からない
その理由について記載してください

5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方について、どう思いますか。

再開すべきである 中止のままでも仕方がない どちらともいえない
その理由について記載してください

6 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点があれば御指摘ください

Ⅲ 公立美術館の役割についてお尋ねします

あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにチェックしてください。

絶対に必要 どちらかといえば必要 どちらかといえば不適切 適切ではない どちらともいえない 分からない

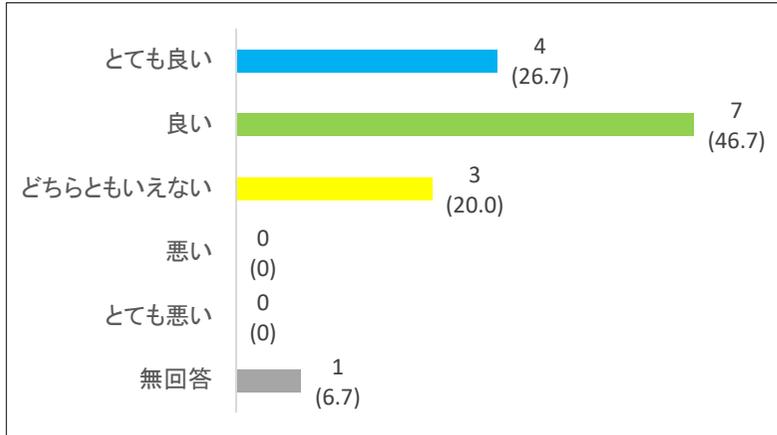
Ⅳ 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について御意見があれば、御自由に記載ください

御協力ありがとうございました。

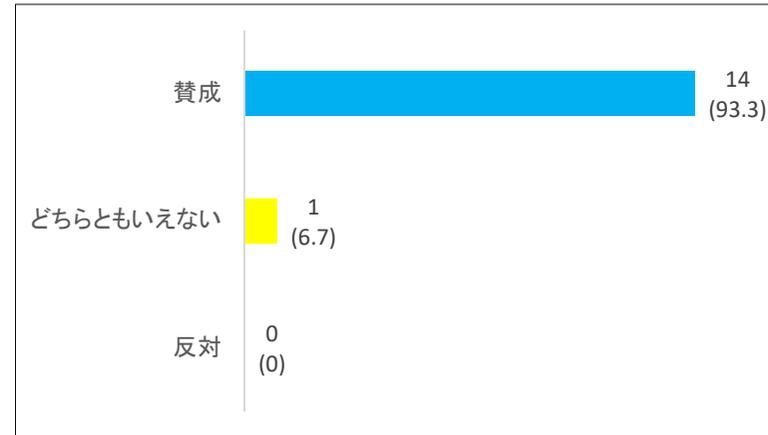
国内アーティスト向けアンケート結果(選択部分)

(人、()内は%)

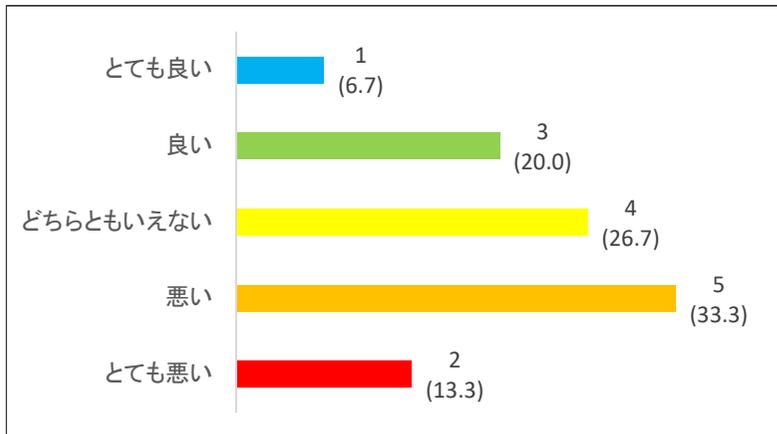
I あいちトリエンナーレ2019全体について、どうでしたか。



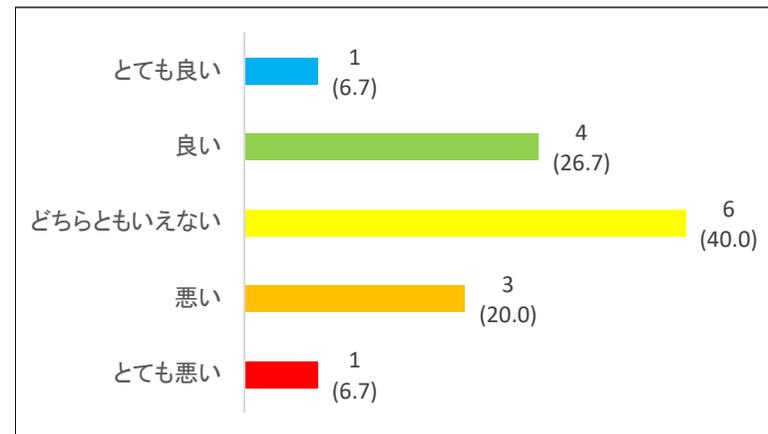
II 1 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨についてどう思いますか。



II 2 「表現の不自由展・その後」の展示方法についてどう思いますか。

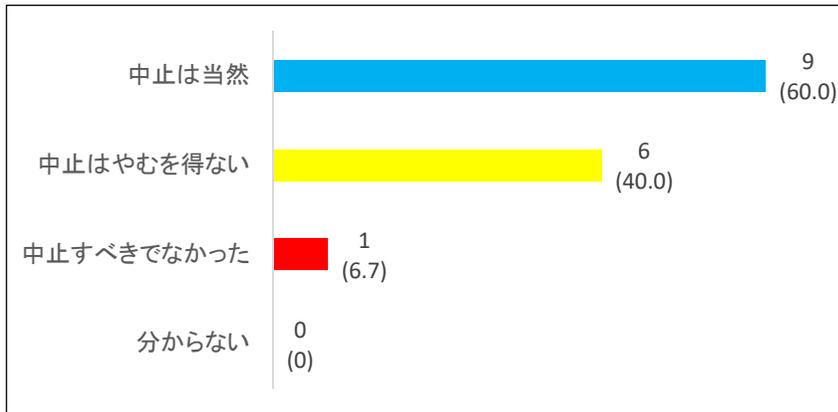


II 3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について、どう思いますか。

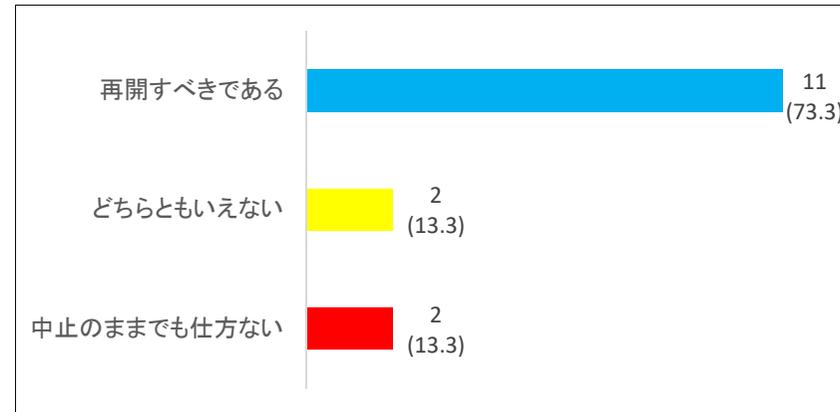


国内アーティスト向けアンケート結果（選択部分）

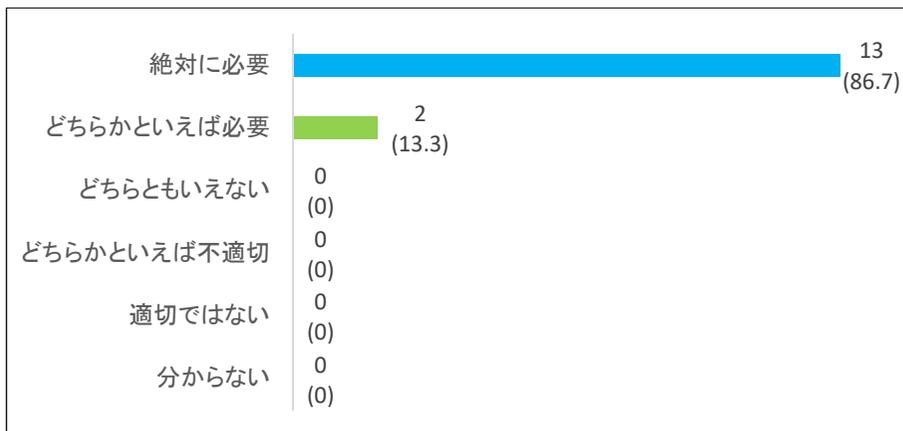
Ⅱ 4 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか。



Ⅱ 5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方について、どう思いますか。



Ⅲ あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにチェックしてください。



国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
I あいちトリエンナーレ2019全体について(13件)	<p>○政治的、批評的なメッセージがある作品が多く、日本国内のアート展とはちょっと違う感じがしました。また、アート業界以外からの芸術監督の人選も面白いです。トラブルもありましたが、彼だからできた事(ジェンダーバランスなど)も色々あったわけで、そういう意味でも良かったです。</p> <p>○技巧性や自己満足感、私小説的な表現ばかりでなく、作品それぞれに作家の置かれた環境、考え方が色濃く反映され、表現の多様性を見る事ができ充実していた。国内の美術展では、このような企画をあまり見る事がない。</p> <p>○美しい作品がたくさんある。メッセージ性の高い作品が多いように見える一方で、美的にもよく配慮されており、スペクタクルに富んでいる。観客の緊張感をうまく保つための仕掛けがあちこちに仕掛けられており、飽きることがない。観客への気配りがすごい。広報・情宣もよくできていて、全部のプログラムを見たいという気持ちにさせる。</p> <p>○芸術監督の個性が強く出ており、現代的な問題意識のある作品が多かった為、作品はもちろん作家の態度のあり方としても、参加者として非常に勉強になった。</p> <p>○楽しい。色々な価値観・視点で物事を見る事が出来た。「情の時代」というテーマから、政治的な内容も見受けられたが移民問題など普段日本で生活している中では見えづらい問題について向き合うきっかけができたこと、出展アーティストが男女平等というだけでなく年齢層も幅広かったので、世代ごとの物の考え方や見え方など色々な立場で考えることが出来た。</p> <p>○良い点：音楽イベントや演劇など、多様なジャンルがあった。社会問題を多く取り上げ、ビジュアルの楽しみだけでは無いアートの在り方を広く示した。</p> <p>○ジャーナリストが芸術監督を務めることにより、ジャーナリストがキュレーションした特長が良く出ていて、多角的な視点、作家の選出と魅力的なトリエンナーレになっていたと思います。</p> <p>○一部しか見ていないが、ジャーナリスティックな視点を感じる展示が多く、楽しくもあり、示唆に富むものもあった。</p> <p>○まだ半分しか観れていませんが、作品の内容も一つ前のあいちトリエンナーレよりも、記憶に残り、展示を観終った後も考えさせてくれる作品が多いように思いました。</p> <p>○●●氏を芸術監督にしたことが最大の最良の選択だった。日本の文化意識の低さを露呈するための機会を作ってくれた。</p>	<p>○悪い点：表現の不自由展・その後の騒動により、あいちトリエンナーレ全体にネガティブな印象が取り付いてしまった。</p> <p>○改善点は、やはり、不自由展の中止がとても残念です。再開してほしいです。</p> <p>○ごく限られた展示しか観ていないので、全体的評価をすることはできない。なお、このような漠然とした設問を設定すること自体、一体、このアンケートが何を検証するためのものであるかを理解しがたくするものであり、少なくともこの点において、あいちトリエンナーレの対応(あるいは検証委員会の対応)は「極めて悪い」と評さざるを得ないことを付記しておく。</p>

(注)個人名は非公開又は役職名としてあります。

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
II 1 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨について (1件)	○危機感を行動に移した作家はもちろん、芸術監督やキュレーターの方々の勇気に心から敬意を感じています。開催前にその思いをもっと共にできていたらと、後悔が残ります。	
II 2 「表現の不自由展・その後」の展示方法について (13件)	○会場の広さに対して詰め込みすぎの感があったが、一つ一つ丁寧に解説されていて、見応えがあった。 ○芸術監督が任命されたことで、彼にしかできないトリエンナーレの方向性、その象徴的な展示として取り上げられたのは十分理解できるし、問題提起としては成功している。これからは多くの人に対して明らかにされた問題をどのように解決していくか。解決しなければならない。 ○観ていないのでなんとも言えませんが、平和の少女像の作者は、「反日の象徴」としてこの像をつくったのではないといくら説明しても、そういったことは無視して暴力的に抗議する人がいる、という社会の現象そのものを浮かび上がらせ、それについて多くの人が冷静に考えることができる展示になればいいのになとは思いますが。例えば、作品鑑賞の後、鑑賞者に像の作者の意図は本心だと思うか、アンケートを取り、それを開示するか。像の隣で「反日の象徴」と誤解を招くようなメディアの映像や、ネットの記事などを展示し、差別者の存在そのものも見せていいと思います。平和の少女像だけを置くよりも、平和の少女像に対する私たちの「印象」がメディアによってどれだけ歪まされているか、今はネットで全てを調べる人が多い時代なので、知らないうちに、像を反日だと煽りたい人の情報を目にして、像は「反日の象徴」と思っていた人も多いのではないのでしょうか。私たちは、作者のことを直接展示会場で読んだとしても、まだメディアの印象を引きずってしまうのか。作者を信じることはなぜ出来ないのか、そうしたことで踏み込んで考えられる展示だったら良かったのになと、騒動が起きてから思いました。なぜなら表現を不自由にしているのは私たち自身であるということ強く実感しなければならぬテーマだと思うからです。ただ実際に展示を観に行けていないので、なんとも言えない部分はあります。	○タイトルで語っている「表現の自由」をテーマにしている割りに、扱っている内容が政治的に偏っているのは勿体無い。展示自体も、狭い空間にぎゅうぎゅう詰め、とりあえず並べているという感じ。 ○狭い空間の中に何点も詰め込まれて見づらい。資料展示なのか、作品展示なのか、どちらともつかない展示の仕方がっかりした。他の展示空間同様、ゆったりと空間をとって1点1点、作品を丁寧に見せるべきだと思う。ごった煮で見せるようなものではない。 ○本展の配慮の行き届いた展示と比較して、明らかに雑な展示だった。個々の作品や資料に向き合うための環境が整えられておらず、戦略を感じない。せっかくのいい企画なのに本当にもったいないと感じている。 ○展示の組み立て方や作品の見せ方がうまくいっていないように見えた。作品が実行委員会の言いたいことを言うためのだけの道具になってしまっていた気がする。議論の場を作りましようと言っていたけれども結局のところ亀裂を生んだだけな気がする。残念です。しかし中止や撤去には反対です。 ○趣旨は理解も出来、あえて公共の場でそれを行うという試みは挑戦的で賛成できたが、展示空間があまりにも狭く、作品やアーティストに対しての敬意が感じづらい。一観客としてもとても狭くて見づらかった。(特に入り口通路側の作品。)最初は追いやられた作品たちだからわざと詰め込んだのか、とも思ったがそれにしても年表や解説など、展覧会趣旨からすると大切なはずのものまで読みづらく、展示不許可になった経緯を伝えたいはずなのに狭いために人が集中して、解説も読みにくかったのは良くないと感じた。今回の趣旨から展示を行うのであれば、まずは作品をじっくり鑑賞してもらえスペースを確保し、年表や解説など多くの方が同時に読めるよう、展示不許可の理由をわかりやすく提示するべきだったと感じる。リーフレットがあっても良いかもしれない。

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<p>○申し訳ございません。残念ながらこちらでも直接拝見していないのでお答えするのが難しいです。芸術監督からの報告書を拝読した限りでは、抗議や脅迫にも十分に備えた方法だったと思います。問題は展示方法よりも、事前準備や告知、関係者同士の意思疎通の方にあるのではないかと思います。</p> <p>○全体として良いと思うが、ディテールで少し気になる部分があったが、全体としてはとても良い。</p>	<p>○私は展示完了後の空間を見てないので言えませんが、後からネット動画で見て、空間が狭すぎて意図としていた「理由」等を作品とともにもと明確に表示できるようにした方がいいのではと思った。</p> <p>○他の会場から、展示室に流れるように自然に入室したが、「表現の不自由展」として観て退室した。言い換えるなら、「その後」という括りがなく、製作者が剥き身で「表現の自由の現在性」を表現していると思った。タイトルとの齟齬なのか・・・。「その後」をどう演出・表現するかについての練り込みが、感じられなかったのが残念である。</p> <p>○上述の趣旨を実現するためには、それぞれの作品が発表されたコンテクスト、何が問題となったのか等が、わかりやすく、かつ、見落とされることなく展示されている必要があると考えられるが、私がみた限り、そのようになっているとは思えない展示であった。</p>
<p>Ⅱ3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について(10件)</p>	<p>○良い。ただし、他に加えても良かった作品があるとより良いと思いました。</p> <p>○作品の選定が政治によりすぎているという批判もありましたが、それが実行委員会の方達の好みなんだろうと単純に思いました。政治がテーマの作品が好きな人もいるだろうと思います。政治的に寄りすぎている展示はするべきじゃないってことを否定し始めたらそれこそまさしく検閲だと思います。ただこれも、実際に全ての作品を観ていないのでわかりかねる部分もあるし、像を展示するだけで、中止することにより像は「反日の象徴」なのだとの誤解を広めてしまっていて、像の印象を悪くするだけになってしまったように思うので、そこは改善していただきたいです。</p>	<p>○候補にあったが出品されなかった作家の作品をニュースで知り、それらが良かった方が良かったと思った。</p> <p>○作品の選定よりも、タイトルの方が問題がある気がしています。表現の自由という問題を、現代社会に生きる人全員の問題として扱うのではなくて、実行委員に近い人たちの問題として捉えていると感じました。</p> <p>○企画趣旨はとても面白いので賛同するが、作品選定で思想が偏って見られても仕方ないと思った。エログロを含めもっと多様な表現のボーダーラインが見れると思ったので「表現の不自由」ではなく「思想の不自由」展だなと看板に偽りありと感じた。「思想の不自由」展であれば公立施設で問うのは微妙だと思う。●●さんや●●さんのように質の高い、アートでしか触れられない表現があるのに、思想が直接的かつ稚拙な表現でまず作品の域まで達してるか？と疑うような作品も混ざっていた事が残念だった。色付きの平和の少女像がよかっただけに巻き込まれて残念。ここもきちんと芸術監督やプロのキュレーターチームが、質の高いキュレーションを目指すべきだったと思う。</p> <p>○「表現の自由」の本題からは外れてしまうが、クオリティの低い作品の混在が、この局面において足を引っ張っていると感じる。展示方法とも絡み、キュレーション不在であったことが悔やまれる。作品の選定は世界に広げるべきであったと思う。また過去にも遡るべきだった。その中で自然と現在の日本の不自由の状況が立ち上がる、そういう手法がとれなかったか。</p> <p>○2015年の展覧会を踏まえた上での2019年の「表現の不自由展・その後」にするのであればもっとバラエティに富んだ作品が出せたと思うし、反対に2015年の展覧会をもう一度行う、というのであれば数を絞って2015年の展覧会に寄せるべきだったとは感じる。中途半端な気がする。</p>

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<p>○政治性に特化しすぎて見えてしまうのが残念であった。</p> <p>○こちらも直接拝見していないので。すべての記事を追えているわけではありませんが、見た方の記事や感想を読む限りでは、日本の現政権を批判する内容のみに限る必要があったかどうかは少し疑問が残りました。もっと海外も含めて広く視野に入れ、戦前戦後の歴史を学術的に検証するか、もしくは誰にとっても普遍的に不愉快なもの(例えばエロやグロなど)も含めるなど、見方を狭めずに新たな視点を与えていくような工夫と幅広い選定が検討されても良かったのではないかと思います。</p> <p>○「作品選択者の政治的主張が透けて見える、偏りがある(ように見える)作品選択である」、と評するものが少なくない状況を作り出すような選択となってしまっていることは、間違いないと思う。上掲の趣旨を実現するためには、もう少しバランスを考える必要があったと思う。</p>
<p>Ⅱ4「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて(13件)</p>	<p>○大きな事故が起きる前に中止した判断は、間違っていないと思います。</p> <p>○人命に関わることなので止むを得ない。</p> <p>○京アニの事件のすぐ後であり、何か本当に起こって犠牲者が出るのは何としても避けなければならなかったのは理解できる。しかし表現の不自由展の展示方法がうまくいってもいなくても同じことが起こっていたはずだと思う。もう少し何か事前に準備や対策を考えていて欲しかった。</p> <p>○あいちトリエンナーレは美術関係の人以外にも、地元の方まで幅広い多くの鑑賞者が来ている印象があり、鑑賞者の安全は絶対に確保されないといけない。また、展覧会準備中に関わった職員の方々が遅くまで働いた姿を見てきたので、職員の方々が苦しんでいる事実が辛い。中止に関しては止むを得ないと感じる。</p> <p>○人命が関わっているので中止はやむを得ないが、必ず再開したい。</p> <p>○テロ予告や脅迫によるトリエンナーレ職員に対するハラスメントを考えれば中止は当然と思うが、「表現の不自由展・その後」の事前対策には疑問が残ります。</p>	<p>○結果として「中止はやむを得ない」と思うが、一度覚悟を決めたのなら「中止すべきでなかった」と思う。簡単に扉を閉めて中止できる逃げ道のある会場設定に疑問が残る。会場中枢に展示して、そこを閉めると全体が閉鎖される、ぽっかり穴が空くという覚悟で望んで欲しかった。</p> <p>○理由が電凸であると聞いたときには、自分が責任者であっても中止しただろうと思った。しかしその後、公務員の不自由さが原因でもあると思い直し、中止は間違いだったと思った。しかし中止がなければ世間にあふれる膿があぶり出されることもなかったから、その膿が見ただけでも中止の価値はあったと思った。というわけで中止の是非の判断はもうしばらくかかると思う。</p> <p>○セキュリティ対応など、事前により力を入れてやるべきだし、知事が「テロには負けない」と発言すべきだった。</p> <p>○今日の日韓関係の悪化を見ると、続行は暴力を誘発し兼ねません。強行突破することが英断とは思えません。ただ、公開前から「少女像」が火種になることは十分に考えられたはず。現在の政治状況を見た上で、世間にこうしたものをやるんだと前々から公表し、十分に議論を重ね、専門家や海外の知識人も招いて勉強会等を行う必要があったのではないかと思います。敢えて伏せることの効果を狙っていたのであればなおさら、そこは重く受け止めるべき点だったと思います。事前に意識を共有できていれば、私たちはもっと連帯を大切にできたと思いますし、立ち向かうべき相手もより明確になったはず。</p>

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<p>○中止はやむを得ない、けれども、再開の手立ては探るべきだと思います。アーティストがコールセンターを設置するというのには大賛成です。手伝いたいと思っています。もちろん、あとは警備の問題等もあるとは思いますが、このまま終わってしまうのは避けなければと思っています。</p>	<p>○「表現の不自由展・その後」を中止せざるを得ない、この社会の「表現の自由」の現在性について露呈させてしまったことを、どう解釈すべきか、終わってみないと分からないが、中止したことをプラスには、今の段階では思えない。</p> <p>○中止でなく、「一時不公開」にして様子を見る柔軟性があつたら如何でしょうか。</p>
<p>Ⅱ5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方(再開)について(13件)</p>	<p>○脅迫・暴力は単に犯罪だが、作品の批評に関しては税金を使って公開した以上、一般市民の声を良かれ・悪かれ受け止めなければいけないように思うし、公平に見る機会を広く提供すべきかと思う。作品を実際に見て批評する権利を一般の人から奪ってはいけないと思っている。</p> <p>○当然再開すべきである。「閉鎖に追い込まれた」のはオープン直後、しかも一方向からの集団攻撃による。それによって問題が表面化し、その後、攻撃に反対する意見や一部の政治家の発言への疑問など様々な意見が噴出し、いまようやく、再度国民に判断を仰ぐ機が熟したと思う。再開した結果は無論世界に公開され、今後の日本の国際的地位に大きく関係することは言うまでもない。</p> <p>○全く同じ形でというと難しいのかもしれないが…やはり再開してほしい。</p> <p>○早急に課題をクリアし、展示を再開していただきたい。また現在展示閉鎖や展示内容の変更を余儀なくされている作家の作品も本来の姿で展示できるようになって欲しいです。</p> <p>○テロによって中止したまま終わるとするのは問題であるから。</p> <p>○日本の美術にとって、とてつもなく大きな後退で、「表現の自由」を喪失したことに等しいので、何としてでも再開すべき。</p> <p>○鶴の如き中止の圧力に、ただただ屈したというのでは、情けない。なんとか、再開してほしい。</p> <p>○中止のまま終わってしまったら、日本でまた、引き返せないほど、表現の不自由が進んでしまうと思うからです。</p>	<p>○今回の問題は平和の少女像がきっかけになったとはいえ、最終的には天皇の問題に届いてしまった事だと思います。政治問題だけであれば、ただのイデオロギーの対立ですが、天皇になった途端に、宗教の問題になってしまいます。日本人の宗教観を問うのがテーマではないと思うので、本当に表現の自由を扱いたいのであれば、天皇というだけでヒステリーを起こしてしまう人たちがいる中で、このやり方では無理だと思います。やり方を変えて出直すしかないと思います。</p> <p>○全員が出展しているトリエンナーレをもう一度見たい、という気持ちはある。しかし、あのまま展示を再開するのであればまた同じような問題が起きてしまうのではないか。再開をするのであれば展示方法を変えたり、前もって作品についてしっかりと宣伝をした上で行うべきだと考える。</p> <p>○問題が大きく、複雑になりすぎているため、展示再開は難しいのではと思う。</p> <p>○状況次第です。声をあげることに以上声のあげ方が問われる時代だと思います。脅迫に屈しないという強気な態度だけでは、今の流れに対して立ち向かうことはできません。過激な人間に過激に応戦することは火に油を注ぐようなものです。また表現に関わる人間同士で噛みつきあつたり、身内だけで議論することも自己満足に陥り兼ねませんし、世の中への効力は期待できないように感じます。「表現の不自由展・その後」の再開を急ぐ前に、私たちの目の前に傷ついた人がいることを忘れずに慮ることと、表現者だけの問題だと無関心でいる一般の人々に向けて、日本の表現の危機を訴えかけることが急務だと考えています。「脅迫で表現の自由を奪える前例を作ってしまった」と訴える方のご意見も、よく理解できます。一方で、日本を代表するジャーナリストを責任者として迎え、県知事にバックアップを受けてもなお、脅迫や政治的圧力から表現を守れなくなってしまったくらい今の日本はもはや不健全なのだという事実も、同時に直視する必要があるのではないのでしょうか。そこから始めなければ何も再開できないと思います。</p>

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<p>○医師が、一度手術を引き受けながら、途中でこれはダメだと思い、手術を途中で辞めてそのまま放置したら、医師法違反で処罰されるであろう。また、タクシーの運転手が、山道を通ることを一度引き受けた上で、途中でこれはダメだと思い、客をそこで降ろして帰ったら、その運転手は二度とタクシーの運転は許されないであろう。一度開催を引き受けた展示を、途中で辞めてそのまま放置するということは、それらと同等の不当な行為と考えられる。</p>
<p>7「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点について(10件)</p>	<p>○メディア含め、天皇に関する部分をあまり話さない事が、物事をややこしくしている部分があると感じています。とはいえ、それをする事が可能なかどうかは分かりません。少なくとも、恫喝する政治家は法律を犯しているので、彼らを訴えて発言を撤回させる必要があると思います。それができれば、不自由展の復旧は無理でも、良い結果を残せると思います。</p> <p>○芸術監督、知事の意見はよくニュースになって見る事ができるが、個人的にはアートのプロであるキュレーターの方々の意見や感想といった具体的な話が見えてきてないように思う。各キュレーターの方々がどのように見ているのか意見や話を聞ける機会が欲しい。(ただ、チームとしてやっている以上、言いにくさはあるのはわかります。)</p> <p>○●●氏が知事であったことは大きな救いだった。不自由展実行委員会とトリエンナーレの間で最初からボタンのかけ違いがあったのは非常に残念で、そこは企画のミスを認めなければいけないが、芸術監督およびトリエンナーレは大局に誠実に動いているという印象を受けている。最終的には県の判断が大きいと思うので、引き続き知事に期待している。</p> <p>○知事の毅然とした対応はとても素晴らしく、支持している。芸術監督たちと不自由展実行委員会と足並みが揃っていないように見えるのがやはりちょっと気になる。</p> <p>○よく頑張って対応していると思う。</p> <p>○開催前にもっと企画意図の説明と意識の共有の場が必要だったと感じています。その点に関してだけ非常に残念です。起きてしまったからは必要な対応をその都度してくださっているとしますし、こうした状況の中、各アーティストに連絡し、声を集めていただいて感謝しております。今は力を合わせて無事に芸術祭を完走させることが何より大切だと思います。</p>	<p>○最初から疑問だったのは、芸術監督や実行委員会の方々の声は聞くのに、不自由展の参加アーティストたちの言葉が聞こえなかったこと。中止に当たって、参加アーティストたちに対してどう説明したのか、その時のアーティストたちの反応はどうであったのか。オープンディスカッションに参加する中で、言い方は悪いが●●さんのように巻き込まれてしまった、十分に伝えることが出来ないまま終わってしまい、不安や憤りを感じるアーティストも多いと感じた。問題になってしまった作品もはじめ、不自由展のすべてのアーティストたちはどうしたいのか、どう感じているのかをまず知りたい。そこが抜け落ちているように感じる。また、彼らがどういう意図で作品を制作しているのか、もっと明確にまとめて発信できないのかと疑問を感じてしまった。</p> <p>○私は群馬にいますが、現場の動きについての情報がほとんど来ない。委員会、知事の基本的方針を、はっきりと発言していくべきだ。次の展開への…ゴールが見えない。テロにやられて終わりというイメージが大きくなるだけ。</p> <p>○「表現の不自由展・その後」の再開に向けての情報が不透明だと思います。</p>

国内アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<p>○Re Freedom aichilに対して、あいちトリエンナーレ実行委員会側はどう考えているのか、どうリアクションしていくのか、もしあればお聞きしたいです。</p>	
<p>8 公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて(1件)</p>	<p>○公立の場だからこそ必要。自由の問題、権利のことなど、公の場で観客が考え、議論できることをつくり、保証し、文化をつくり出していくのが公立美術館の役割である。税金使って当然。</p>	
項目	意見	
<p>IV 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について(9件)</p>	<p>○今回の事にめげずに、今後も挑戦的な方向で継続して行ってほしいと思います。</p> <p>○今回の件で、あいちトリエンナーレの果たすべき役割が国際的になったと感じています。次回のトリエンナーレは、芸術監督はじめ関係者の誰もが及び腰になるかと想像しますが、実際、今回は、今後の日本を左右するほどの影響力を持つことになると思います。いずれにしても覚悟が必要で、そのためにも今回の残りの会期でどう伏線を張っておけるかが鍵を握っていると思います。個人的にはあいちトリエンナーレのネアカさが大好きです。愛知には突拍子もない物を面白いがる風潮と寛容さ、あっけらかんとした明るさがあり、それが芸術祭の独特の魅力を生んでいるのだと思っています。実際、その空気を慕って芸術祭のあとに愛知に移り住む作家がけっこういると聞きます。それだけに、名古屋市長の暗く粘着質な発言には驚きました。今回の事態は「明るさ」だけで乗り切れるものではありませんが、地元の人が楽しめる芸術祭であることに加え、これからあいちトリエンナーレが獲得すべき「国際的評価」は、今回の事態に愛知がどう答えていけるかに掛かっています。隣国に対する差別的な態度に今後も愛知が加担するようなら、どの国の作家からも見向きされなくなり、愛知で同様の国際美術展を開催することが事実上難しくなる。事態が愛知にとどまればまだしも、日本全体が孤立する危険性すらあります。</p> <p>○地元のオーディエンスに非常に愛されているトリエンナーレだと実感した。今までの成果は素晴らしいし、今年の試みもチャレンジングで価値あるもの。それらを次回に繋げていくために、協力したいと思う。</p> <p>○「表現の不自由展・その後」の展示再開が難しいとしても、展示を中止、変更した作家の展示を元の状態に戻す方法を考えたい。</p> <p>○作品は公開された以上、他者に届けなければ全く意味のないものだというと同時に、様々な立場の作者が参加し、あらゆる思いがある中で、炎上という極端な見方を促す在り方は望ましくないと思います。表現、言論の自由は会期中だけの問題ではないので、もっと長い目で見て解決の道を探る必要があると感じています。あいちトリエンナーレ関係者だけがこの問題を抱える必要はありません。たくさんの人の知恵と力を、もっと広く借りるべきです。</p> <p>○暴力的差別的な声により実際に芸術祭の展示が中止されるという事態を見て、率直に恐怖を感じた。このままにしておいてはいけなない。</p> <p>○愛知県知事と名古屋市長は、アートについて思索し、見識を持つこと。いろいろあるだろうが、それなりにコミュニケーションを取ってほしい。</p> <p>○前回のトリエンナーレより断然素晴らしい。○○氏のディレクター能力を高く評価する。</p> <p>○社会調査を専門の1つとする研究者の視点から、この調査票は、公正な調査票であると言うことはできない。そのような調査票を用いた結果により、何等かの意思決定をすることは、恥の上塗りであることを指摘しておく。</p>	

海外アーティスト向けアンケート

実施期間: 2019年9月10日～10月7日

実施対象: あいちトリエンナーレ2019海外アーティスト(音楽プログラム及びパフォーミングアーツ参加アーティストを除く)

発送数: 38組 回答者数: 12組 回答率: 31.6%

調査項目:

[Aichi Triennale 2019 Questionnaire]

Please answer the following questions. If you click the appropriate check box, a check will appear.

I. What is your impression of the Aichi Triennale 2019 overall?

Very good Good Fair Poor Very poor

If you selected “Very good” or “Good,” please write down good points. If you selected “Poor” or “Very poor,” please let us know areas for improvement.

II. “After ‘Freedom of Expression?’”

<The concept of the exhibition> (Source: <https://aichitriennale.jp/en/artist/after-freedom-of-expression.html>)

Freedom of Expression? was held in 2015, motivated by a serious sense of crisis concerning threats to freedom of speech and expression in Japan. The exhibition collected works that had been rejected or removed from exhibition by either systematic censorship or fear of causing controversy. Works dealing with themes which have been deemed taboo by public cultural institutions in recent years (such as the issue of the Japanese Military “Comfort Women”, the emperor and wartime responsibility, colonial rule, Article 9 of Japan’s constitution, or criticism of the government) were displayed along with the actual reasons given at the time for their removal. At Aichi Triennale 2019, works newly refused exhibition at public galleries after 2015 will be displayed with the reasons for their rejection in similar fashion, in addition to revisiting works featured in the original exhibition.

1. What do you think about the concept of the exhibition “After ‘Freedom of Expression?’”, one of the sections of the Aichi Triennale 2019?

Agree Disagree Neither agree nor disagree

2. What do you think about the way “After ‘Freedom of Expression?’” was displayed?

Very good Good Fair Poor Very poor

If you selected “Very good” or “Good,” please write down good points. If you selected “Poor” or “Very poor,” please let us know areas for improvement.

調査項目:

3. What do you think about the artworks selected for “After ‘Freedom of Expression?’”?

Very good Good Fair Poor Very poor

Please write down reasons why you think so.

4. What do you think of the closure of “After ‘Freedom of Expression?’” three days after it opened due to the difficulty of ensuring security and safety?

Understandable Inevitable Should not have closed Unsure

Please write down reasons why you think so.

5. What do you think should be done with regard to “After ‘Freedom of Expression?’”?

It should be reopened. It unfortunately must remain closed.

Hard to say

Please write down reasons why you think so.

6. Do you have any advice for the Aichi Prefectural Government and the Aichi Triennale Organizing Committee in relation to disclosing information and providing explanations about the incidents surrounding “After ‘Freedom of Expression?’”?

III. What do you think about public art museums having freedom in what they exhibit, including ideas, thoughts, and knowledge?

It is necessary at any cost. It is necessary. It is neither necessary nor inappropriate. It is not appropriate. It is never appropriate.

Unsure

IV. Do you have any overall comments or suggestions about the Aichi Triennale (comments on past Aichi Triennale exhibits, suggestions to improve the Aichi Triennale in the future, etc.)?

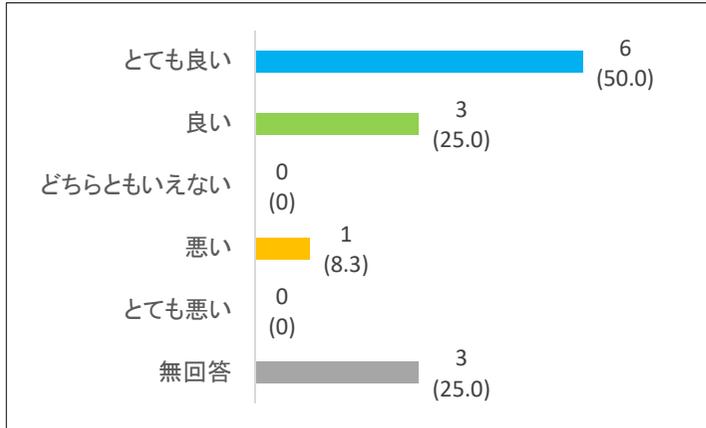
Thank you very much for your kind cooperation.

Aichi Triennale Investigation Committee

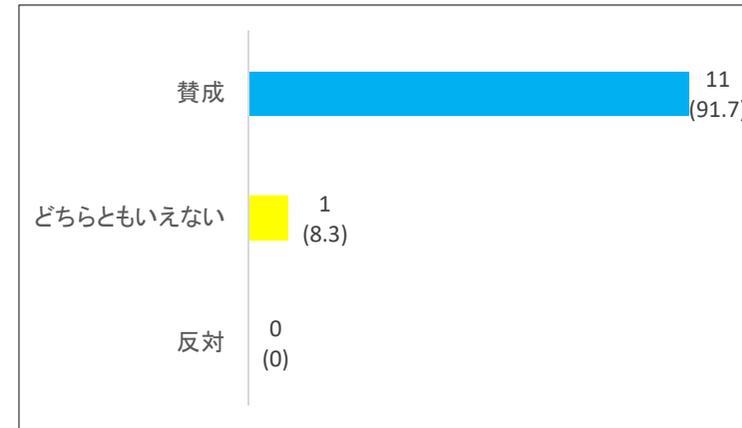
海外アーティスト向けアンケート結果(選択部分)

(人、()内は%)

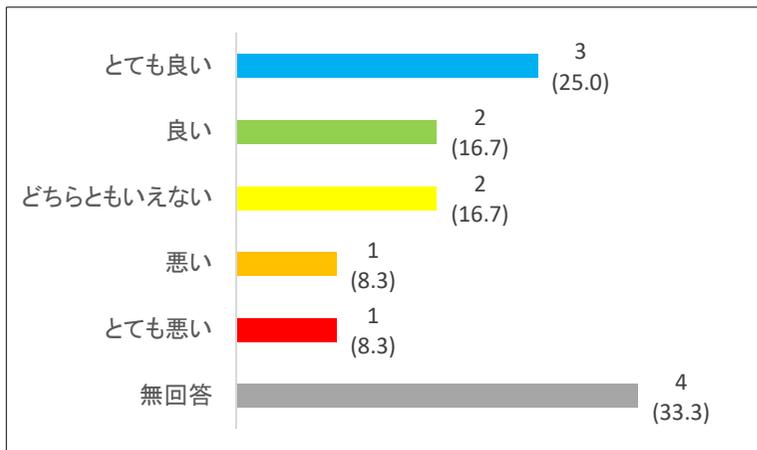
I あいちトリエンナーレ2019全体について、どうでしたか。



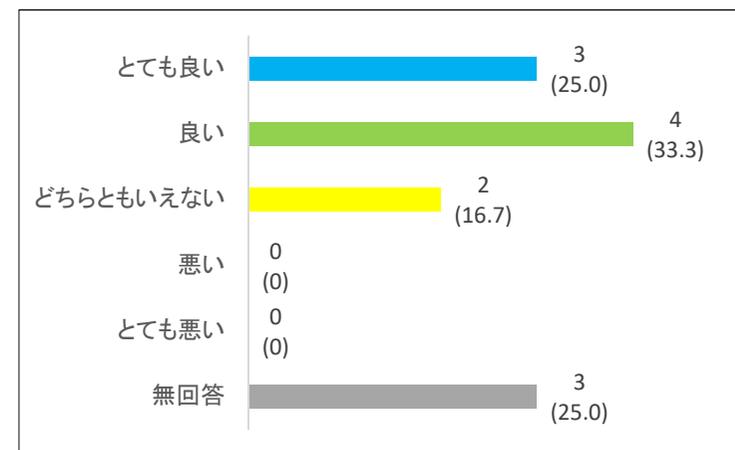
II 1 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨についてどう思いますか。



II 2 「表現の不自由展・その後」の展示方法についてどう思いますか。

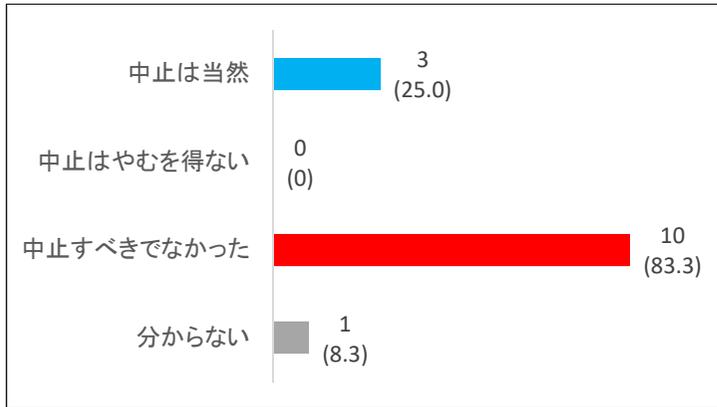


II 3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について、どう思いますか。

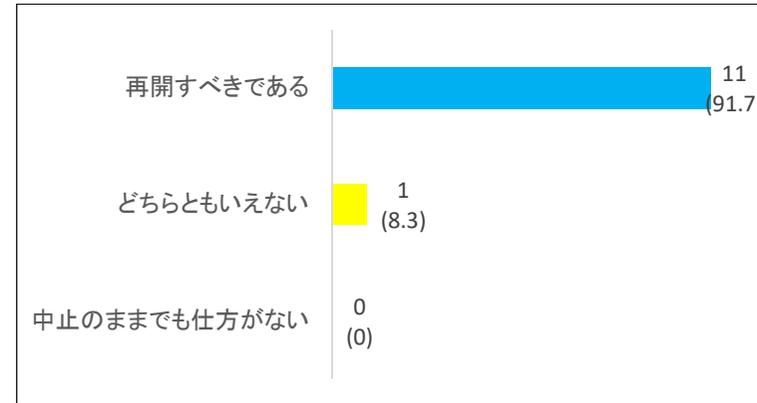


海外アーティスト向けアンケート結果（選択部分）

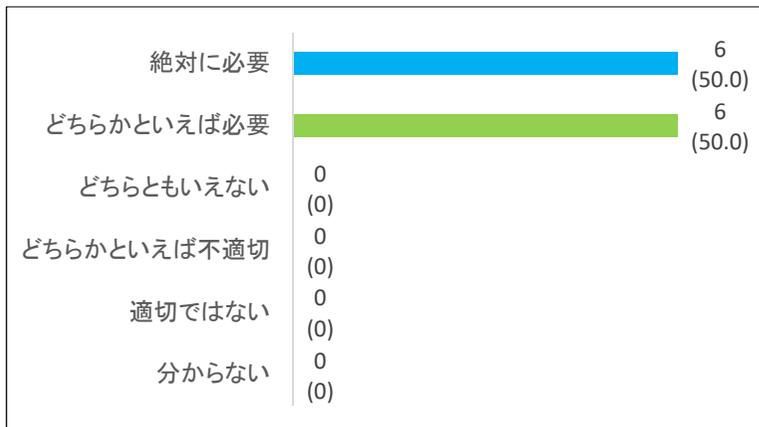
Ⅱ 4 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか。



Ⅱ 5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方について、どう思いますか。



Ⅲ あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにチェックしてください。



海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
I あいちトリエンナーレ2019全体について(11件)	<ul style="list-style-type: none"> - Very international and with contemporary issues. - I greatly appreciate the curator's approach and the work of the curator and the professional installation team. - The exhibition of Aichi Triennial itself is very good. The range of artworks is very interesting and there are a lot of relevant topics discussed in the artworks and the different sites are professionally arranged. It is a very well curated interesting Triennial on a high standard. - The closure of "After Freedom of Expression" makes it impossible to give an unbiased view of the overall show. With the exception of that, I think it was a great show, with lots of interesting, high-quality art. - I think the quality of the curatorial team and all the staff is outstanding, professional, intelligent and helpful. I think the problem is that the politics of the country do not deserve them. - I think overall it is a well-curated, well-organized exhibition with a grouping of works that address a variety of contemporary issues, viewpoints and approaches to the art-making process. One of the strongest characteristics in my opinion is the push to have diversity of the artists as far as ethnicity and gender, - My personal experience working with the team has been great. - Generally very good artworks (I saw only the Aichi Arts Center and half of Endoji/Shikemichi) and very well installed and presented. - 总的来说我觉得展览还是挺棒的，我花了很长的时间把展览看完，看到了很多我喜欢的作品。 	<ul style="list-style-type: none"> - It is difficult to answer this question, because Aichi Triennale has been transformed into something by the complications brought about by the closure of "After 'Freedom of Expression?'". On the one hand, my experience of working with the curatorial team and the supporting staff has been excellent. But the controversy over "After 'Freedom of Expression?'" has unfortunately overshadowed everything, straining relationships between various parties and causing continuous strain long after the opening. - While the exhibition – the selection of artists and selection of works – was of extremely high standard, the closing of 'After Freedom of Expression' section overshadowed the quality of the exhibition. This act of censorship erased the good faith for the Aichi Triennale to show Japan as contemporary. It was a shame as the quality of the theme of the triennial was excellent and section 'After Freedom of Expression' was the best conceptual gesture that could had made a societal difference if kept open, or if reopened, to put the triennial at the level of other international exhibitions and a lesson to other venues in the world who were censored and where not able to reopen.

(注)原文のまま掲載。ただし、個人名は役職名としてあります。

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
II 2 「表現の不自由展・その後」の展示方法について (9件)	<ul style="list-style-type: none"> - In artistic expression it is very important to point out the problems of society even in a controversial way. Critical thinking is essential for the development of culture - Art is a safe space for society to deal with traumatic historical events, as well as current unresolved issues. Therefore, the concept ‘After Freedom of Expression’ for the exhibition was excellent and appropriate for the triennial, especially as it brought historical issues to current public current conversations seventy-five years after the event. The closing of this section gave the impression that Japanese society is not ready to acknowledge their pasts, but that it is also a society with a strong tendency towards censorship and repression. Ultimately, that it is not ready to enter into the contemporary world of art. The way ‘After Freedom of Expression’ was displayed was very good once you entered the space as it was well designed. This was due to the following reasons: there was space for each work; the texts next to work were well written to allow understanding for people who did not know anything about the issues, historical relevance and facts, and the issues that caused the censorship, such as foreigners, young people etc. However, it was very hard to find ‘After Freedom of Expression’ and this signals that this section of exhibition was not important. While I think it was the best part of the whole triennial, not only for the quality of the individual works, not only for the fact that it showed things that the audience may not know about, or know very little about (which is excellent for an exhibition), but also because of the relevance of having such a conceptual gesture within a triennial. - I had the chance to see the exhibition during the opening days. Even if it was really full of people, I managed to understand the point of the exhibition. 	<ul style="list-style-type: none"> - The After Freedom of Expression exhibition has to be seen as a conceptual statement, therefore the single works, nor the display can be judged according to the artistic standard of the rest of Aichi Triennale. I think the position of the exhibition inside the exhibition is not really clear. If would have been an artistic concept it would have been better. - It is difficult to express a simple and straightforward judgment of the exhibition. On the one hand, this section was probably one of the most important components of the Aichi Triennale, because of the continued relevance and urgency of its contents. But on the other hand, there did not seem to be much thought given to the display of the works either ‘aesthetically’ or ‘politically’. These works seemed to be presented simply as “examples” of censorship – and as such were simply packed into a space without giving each of them much breathing space – as compared to the rest of the Triennale (which was more carefully thought through) – this has reduced this art objects in “After ‘Freedom of Expression?’” to being simply objects or “information”. Neither were the works in “After ‘Freedom of Expression?’” recontextualized or re-presented adequately. This is not to mention the highly inadequate preparations surrounding the exhibition in terms of security (the exhibition was set up in a “dead end” space) - I did not see it. I don’t like this question of the next one because they imply that it was the exhibition’s fault that it was attacked and censored. In this case the exhibition is the victim of censorship and whether the works were good or bad is irrelevant. - Each democratic country has falous. But democracies should stand for freedom of speech, and for art. If not, they are not DEMOCRACIES…

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> - I think as far as the way the physical exhibition was displayed, it was successful in that the environment was serving the purpose of the work (which is to be viewed) in the same way that the other exhibitions were. There are those even in the U.S. who say that a controversial exhibit should come with a warning label, but I believe that mirrors censorship and does a strong disservice to the work itself and doesn't allow for the viewer to have an objective experience and form an opinion for themselves. The only time that should apply is when there is a physical safety hazard to the viewer (such as strobing lights affecting those who have epilepsy). So my opinion is that it is successful, but again I would always leave room for improvement as I'm sure the artists involved in that exhibition have many ideas about how the exhibition might evolve in the future. - 这个展中展我非常喜欢，事实上我也花了大量的时间在这个区域浏览文献以及与艺术家交谈。通过了解这个展览中作品遭遇的审查，加深了我对艺术与社会之间关系的认知，收获非常大。当时看完以后其实特别佩服策展团队和主办方的勇气和开明的态度，我非常欣赏这种对于自由表达的支持！ 	
II3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について (10件)	<ul style="list-style-type: none"> - It's not "how good art", but what issue and content leaves to censorship. - It is good to point out the injustice of the past, especially when it comes to the suffering of civilians, as women and children. - The variety of subjects of the different works displayed in 'After Freedom of Expression' gave a spectrum of the issues that are sensitive to authorities and the Japanese people over the past few years, and it showed areas in which Japanese society could still improve its reflection. While the most controversial piece addressed the Emperor and the comfort woman, there were other works that were equally as important and depicting equally complex issues in modern Japanese society that need to be addressed. Additionally, it was very important in this exhibition to see the different places and circumstances where censorship has happened. Giving a complex cartography of the way in which Japanese society interacts with its own freedom of expression. 	<ul style="list-style-type: none"> - The artworks themselves, seem to be out of the political Agitpop direction. They use strong symbols in order to provoke. It should have been clear, that it is sensitive material in times of political tensions and that this material will provoke controversy, beyond the usual, more complex ways, how contemporary artworks address the feelings of spectators. - 总的来说在作者的范围内，做到了一定的高度，唯一遗憾的是太过于局限在日本语境中。事实上艺术表达的不自由，在很多其他国家地区，更为严重。甚至不仅仅针对作品，更有针对艺术家的迫害。如果这些都能搜集和表现出来，呈现一个更世界范围的图景，我会觉得非常棒！我甚至觉得如果真的下功夫和花世界，这个关于审查的主题可以办一个不小于爱知三年展规模的大展览！

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> - Freedom of expression is a basic right of a functioning democracy. - They were interesting works that fitted the purpose for which they were selected: they had been censored. They were censored again in AT. - I think there should be no argument that the works chosen for this exhibition were all wise choices as the extreme reaction to them clearly validates the need for them to exist and indicates the on-going need for the conversation these works invoke within Japan and the right to hold space that exhibitions like this represent all around the world. - Showing a selection of banned works in order to understand the reasons for their censorship brings about an important moment for cultural and political reflection. Thus, the closure is paradoxical. - It does not matter whether these works were strong or weak as art objects as they were simply information or examples – to make a case about freedom of expression. This is in itself highly problematic – but not indefensible as a curatorial concept – although what eventually happened to it – censorship – made this endeavor a failure. 	
<p>Ⅱ4「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて (12件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - It shouldn't have been closed, but understandable after this threatening actions. - I see the closure of the section by Aichi Triennale mainly as an issue of safety and not censorship. I am against censorship but ensuring the safety of the audience under the threat of terrorism is more important than the display of art. However, I do think that the Triennale should do its best to work with the city and prefectural government to ensure that the section can be reopened while ensuring the safety of all visitors and inhabitants of Nagoya. - 我可以理解因为在我的国家我经常遭遇和听说这种状况，事实上我也非常佩服整个展览团队的努力和勇气。但我依然觉得这些艺术的表达不应被禁止，日本是一个文明程度非常高的国家，我以为这种事情不会发生。 	<ul style="list-style-type: none"> - Closure of the work just proves that the historical theme in Japan is still unresolved and should be dealt with not by closure but by displaying the work. - As mentioned above, the closure of “After ‘Freedom of Expression?’ ” made the exhibition of this section a complete failure, and although it could have been framed as having proven a point that censorship exists, this cannot justify the complete capitulation. I think the event has shown that deep systemic problems persist not only in the Japanese political structures, but also pervades the Japanese culture. It has shown how easily Japanese political systems can be “subverted” – for example, by the Nagoya mayor – utilizing social media to bypass constitution (which should protect citizens and freedom of expression). And the inability of the political structures to react or respond with force to this subversion shows the fragile state of its democracy

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<p>- The fact that it closed three days after opening, without a public discussion on the issues that arose from the content was completely inadequate. The fact that the artists in the exhibition were not properly informed about the closing of the exhibition was wrong. The fact that censorship was branded as a riskmanagement situation is offensive. And the reason for this is because if it was only risk management, there are specific strategies that are employed to maintain peace and control the risk. Firstly, the threatening telephone calls made to the exhibition staff at the beginning of the exhibition could have been resolved by placing a specialist on the phonelines to deal with threatening communications. Secondly, if an art venue has a threat of someone coming and burning/attacking the venue, the way to deal with this form of risk is to either put more security in the venue: in the section of the exhibition and at the entrance of the exhibition where they could search people and the personal belongings. Thirdly, to allow people to make an informed decision about entering the section of the exhibition a sign could have been posted at the entrance with 'This area has sensitive material'. Additionally, there could have been more guided tours through the exhibition where the audience could have a mediated relationship with the work, and therefore having a way to understand the complexity of the works. Instead of only the primary reactions of like/dislike. Moreover, if there was awareness that people could have strong opinions or reactions to the work other forms of mediation could have been in place. For example, post-its or notepads in areas of the exhibition where people could write their thoughts and discharge their anger or love towards the works etc. It was extremely offensive to have such an important part of the triennial closed only have a simplistic text as an explanation of its closure outside of the closed doors (see attached image) which only denotes that the exhibition is closed without any further information. This allows misinterpretation of what happened in this section and is disrespectful to the audience as it does not allow them to have their own thoughts on the decision that was made. It is also a lie because it was not closed, but it was censored. And the public has the right to know this. Why I insist that it was censored, and not only closed for risk, is that the definition for censorship is for when you withdraw/close a work from an exhibition because of its content (in this case the comfort woman). Closing the section of the exhibition three days after opening did not allow the rest of the public to create its own opinion about the work, meaning that the few people that called and that carried bottled water had more power and more privilege than the thousands of visitors to Aichi Triennale. And it also gives the crazy extremists the sense that what they do will be privileged over the majority. This is extremely dangerous. It was the gesture of closing, and not reopening the section, that is the most negative image we can give Japan with the irony of censoring an exhibition that examines and highlights acts of censorship. But it shows the need to stop politicians from interfering, and deciding what is and what is not art, and what should or should not be shown in an exhibition. And again, this is dangerous.</p>

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<ul style="list-style-type: none"> - There should have been a contingency plan in place for this. This is an act of censorship of visual art and freedom of expression, threats against other types of events (sports, politics, etc) would not cause them to close. - I think it is a scandal that it was closed. Totally unacceptable. The political climate that forced the excellent team of AT to close the exhibition is unfit for a functioning democracy. - Along the same lines as what I said above, regardless of if this exhibition had closed moments after it opened or never closed at all, it deserves to be open and exist just like any exhibition should have the right to exist. Anything else is censorship, plain and simple, and is indicative of a larger problem in any political system. This is because if an exhibition is allowed to be censored, it is likely that that other forms of expression such as the press and media will be or are being censored as well. - I understand it was a very difficult situation but closing it had the absolute opposite effect of what its original purpose was and it was great disrespect for the artists in "After Freedom of Expression?" and a terrible precedent in terms of censorship. From now on, anyone who wants to censor anything knows exactly what to do. - The section should not have closed. I cannot fairly asses the resources that the triennial had for ensuring the safety of its staff and visitors. Ultimately, the local government had to ensure the security of the show. - Closing the exhibition is sending very wrong signals. First of all, the intended concept of criticizing an institutional landscape of conformism and censorship, is thereby totally failed, even more the criticized Censorship is repeated. Any credibility is lost. Nationalist terrorists get through with their demands. It shows them, that terror and threats are working as functioning political weapons to get their will. Maybe this situation is creating even a higher danger to political terrorism in the future.
II 5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方(再開)について(10件)	<ul style="list-style-type: none"> - It must be reopened. Because this will remedy the impression of a dictated regime, which I think Japan, should not be presented at present, especially in the gallery and art world 	

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> - I should be reopened immediately, with an incensement of security. That is, what has been done in other comparable situations of threats towards art exhibitions around the world. -Too much time has passed already without taking proper measurements. Any passing day makes it more unlikely and more ineffective to reopen the exhibition. Another option I see in declaring the intention, to do an exhibition outside and after the Triennial, where “After ‘Freedom of Expression?’ is separately shown and contextualized by interesting, complex contemporary artworks, addressing the topics in the exhibition. This exhibition can be followed by a program of discussions and necessary security measurements can be planned in the first hand. - It is urgent that ‘After Freedom of Expression’ is immediately reopened, but due to the trauma for the staff at the opening of the exhibition and the media frenzy, I would like to see it done with proper educational care. For this it would be desirable to have a public debate and discussions about the exhibit – public meaning open to everyone (favorable and against), with both experts and the general public – and why it is important to not close the exhibit, and the historical facts addressed in the works, and the state of cultural repression and selfrepression in Japan and in the world. I think the Aichi Triennale has the one and only opportunity to show the world how to properly address difficult subjects, contemporary and historical, by reopening the exhibition as soon as possible. This will become a cited example when similar acts of threats, and the inverse act of censorship, and they will look for Japan’s response if it is reopened. I still have strong faith that the Japanese government and the curators will do the right thing. Even if it means that the curators act differently to politicians, and exhibit freedom of expression while under pressure from politicians. 	

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> - Freedom of expression is a basic right of a functioning democracy, protected by the Japanese constitution. If you submit to threats, you are allowing political pressure and terrorists to control society and set the agenda. - It should be reopened immediately. See answer above: The political climate that forced the excellent team of AT to close the exhibition is unfit for a functioning democracy. - To this point I would simply restate what I have said above. The censorship and closure of an exhibition of works that have already been censored before just further underlines their right and need to be made and exhibited in order to invoke awareness, exposure, opinions, thought and hopefully to fruitful and productive conversations the same way that other works might invoke. - It should open as soon as possible because keeping it closed says that Japan is a country where censorship can happen because the authorities are unable or unwilling to provide the safety measures needed to keep their own events open. Opening the exhibition only two days before the Triennale closes, is just as bad or worse and to me would seem like only pretending to open, without really defending the work you originally invited. In that case it would be better to accept defeat before a handful of extreme right activists or continue with what you have said from the beginning that you really did not have the conditions to open. - Leaving the section closed would strengthen political censorship and empower those who intend to silence artists and cultural voices. - (See above. On another note: it might be good to consult the general public what they want, since it's a public exhibition and they should be given the opportunity and responsibility to decide.) - 我依然期待自由的表达可以打通人和人之间的障碍。我同时也觉得对待历史应该有一个正视的态度。我希望这2点得到贯彻和取得胜利，最能体现这两点的就是重新开放这个展览。 	

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	意見
<p>II 6 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点について (10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - All has to be open information! - One possible consequence could be, that the director resigns from his position as a director and makes a statement, where he takes full responsibility for the events. Chief curator will be nominated as the new director of Aichi Triennale for the rest of the time. Also, the original thematic direction of equality and gender was not properly carried out. If there is a critique on equality, the leading positions should be given to female voices. In the events of the opening ceremony and the public visibility, the old structure of male representatives was unbroken, even if a huge part of the high-quality work was done by female positions. That is also highly questionable point about Aichi Triennial. Combining the two points of critique, there might be a problem of credibility towards the intended messages of tolerance and equality. - Dissemination of information and discussions should have been undertaken from the very beginning – this might have helped greatly to close ranks with the artists and participants. When information and explanations finally came through, they were not only too late, but at the same time, full of ambiguity and contradictions, unaccompanied by any real action. - The advice we have for the committee is to employ a separation of powers. In a society where executive, legislative and judicial powers are kept separate, art should reflect this as well. The powers of the politicians should not interfere with power of the curators and the artists to exhibit and create work. Contrary to corporate sponsorship, when an event is done with public resources and when the even government of Aichi is the president of the cultural festival there should be even less interference in the content of the festival. This is because public resources should not only be allocated for defending the political and ideological position of the politician in power, but the best use of government resources is towards healing a historical wound, even if it is not convenient for politicians and does not reflect the views of the ones in power. Cultural is a process that exists beyond and longer than any politicians seat. My recommendation for the committee is that they should be as transparent as possible with the artists in the exhibition, and the general public. Even if the result is not a pretty picture or reflection that they want for themselves. Even if it emotionally messy. And that the only way for a true cultural process can happen is with appropriate educational tools and systems that aid in mediation and reflection and do not attempt to lie or conceal Also, to defend beyond any pressure the freedom of deciding what is shown or not shown in an exhibition. They are the experts – the politicians are not. Each time a cultural event goes into a politician’s self-interest it is an act of censorship. Today it is a section of an exhibition. But tomorrow it could be something as ridiculous as not allowing any foreigners art in Japan. Each time you allow censorship it is terrain that they have gained for their new position to enact their beliefs. It is extremely important to defend the right of freedom of expression now, and not concede to fear and political interests because of the potential danger it could have in the future. - If the unacceptable closure of the exhibition continues (I know in spite of efforts of AT team) all the reasons that led to the closure should be exposed and clearly visible inside the AT general exhibition, so that the audience understands why the right to see the exhibition has been taken away from them,. - I think my only criticism would be as an artist based abroad, I had to leave Japan shortly after the opening of Aichi Triennale and the only “official” contact I have had was the recent letter from the Governor. Based on certain political extremists’ reaction to this exhibition though, I am hesitant to divulge the Japan-based sources that have been doing an excellent job of keeping me informed. As I write this, I’m not sure who the review committee consists of or their political aims in gathering this information.

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	意見	
	<ul style="list-style-type: none"> - I don't know what to advice here because from the beginning there has been information in the press about the harassment and threats by extremists. However, I find the fact that staff had to stay listening to people for many hours and receiving threats and mistreatment, and not being able to do anything, terribly cruel. I think both the Aichi Prefectural Government and the Aichi Triennale Organizing Committee have to take better care of their staff. I don't think the problem is in disclosing information and providing explanations, but in the fact that you have not been able to provide the safety conditions for the exhibition to reopen. - The triennial must demand the government support needed to reopen the section. It is important that the triennial, as an organization fights censorship together with the artists. - Transparency is of utmost important. Whatever decision is made, the reasons should be communicated to the public so that everyone is better informed to make decisions moving forward. - 加强对展览工作人员的保护，并且依法惩治暴徒。 	
項目	肯定的な意見	否定的な意見
Ⅲ 公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて(2件)	<ul style="list-style-type: none"> - It is necessary at any cost, but it is the responsibility of the cultural institution to mediate between knowledge and emotions in the audience, to educate the viewers and to address the areas that could be emotionally challenging for the audience. The institution has a responsibility to defend freedom of expression by making it an educational process. - It is necessary, but museums should have the necessary training and educational tools to be able to do this. 	

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	意見
<p>IV 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について (10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Let's see how other institutions do with freedom -! - Aichi Triennale is a high quality international platform for art and critical discusses, this should be valued and continued in the future. Art should not be misused as a political tool. Never the less, the freedom of art is an important cultural and political seismograph for a society and it`s democratic values. - I think a genuine attempt needs to be made to defend freedom of expression – not simply as a gesture, but with curatorial guile and care, as well as management of public relations and perceptions – in order for genuine debate to take place - I strongly suggest reopening ‘After Freedom of Expression’ section of the Aichi Triennale with enough time before the closure of the triennial. To have the appropriate educational process because it could be as damaging as closing three days after opening, without proper information, as it would be as dangerous reopening with only three days before the end of the Aichi Triennale. There would not be enough time for a public debate, for people to see the work, and without the proper educational infrastructure (guided tours and educational text) to explain the complexities of the works. It is necessary at any cost, but it is the responsibility of the cultural institution to mediate between knowledge and emotions in the audience, to educate the viewers and to address the areas that could be emotionally challenging for the audience. The institution has a responsibility to defend freedom of expression by making it an educational process. Also, it is as negative to have a simplistic text outside the censored exhibition denoting its closure, without any more information to re-opening without any other information. This is inclusive of the emotions and feelings of the curators, artists and exhibition staff. It will be important when it reopens to make sure people know that the area has a potential emotional impact and that there are is proper mediation for this to be addressed. The longer it takes to reopen, the worse the triennial looks. And for such an important national and international exhibition, keeping this section closed tells artists that the only way to show and exhibit their work is through a censored lens. This will have a detrimental effect, over a longer period of time and deeper form of censorship even if it is as collateral damage. And this collateral damage will be bigger than the actual exhibition. I was surprised that the closure was done so quickly and so permanently. By make the opinion of one or two people (the ones that threatened the event and the staff) more relevant that the right of the people to see the work is a longterm danger. I am completely confident that the way in which the curators and the staff of Aichi Triennale in discussing these issues with the press, or open discussion like the one we had in Nagoya, and even this questionnaire is a great way to start the conversation and the process to reopen the exhibition. Please come to me with further cooperation, after reopening ‘After Freedom of Expression’. - I think a clear-minded assessment of the political climate should be assessed before the opening of exhibitions, not to self-censor them, on the contrary: to find the best ways to educate audiences on freedom of expression, an absolutely necessary component for democracy. Not to respect that right is to construct authoritarianism. We all have a duty to the next generations: they have the right to know and to see, to debate and discuss: an ignorant audience is easy prey for totalitarian governments – and we know what we can expect from that type of governments. - I would again restate my appreciation of the diversity of the artists and variety of approaches exhibited and hope that this can be pushed even further in the future. After seeing what has happened following the closure of “After Freedom of Expression” I realized just how much risk the curators were taking in organizing this exhibition, so despite what the outcome may be going forward, they have my respect and support in recognizing the importance and value of exhibiting work that pushes the envelope so to speak, in Japan.

海外アーティスト向けアンケート結果(記述部分)

項目	意見
	<ul style="list-style-type: none">- I suggest having a clearer idea of what to do in terms of controversial exhibitions. https://ncac.org/resource/museum-best-practices-for-managing-controversy?fbclid=IwAR3uFM5HZmBF93KNH90Nj1NDtcIeMVW-poDGntY-e9FgF3KgzoYNoTWmgU8- The triennial should ally with the artist in the fight for censorship. It is the only way to maintain credibility.- I enjoyed working with the staff of Aichi Triennale, who showed a lot of dedication, and it was a great experience for me. They gave me a lot of support to realise my project and am very thankful for it.- 自由是有成本的，这我很理解，但没想到在日本的成本也会这么高。日本的文明程度在我心目中一直很高，这个事情的发生让我很意外。从长远来说，如果纵容这样的事情发生，会让人怀疑展览和美术馆的独立性。毕竟公众应该受到教育和启迪，而且我看到在关闭的前一天，观众排长队来观看展览，更加说明了这个事情的重要性。整个社会不应该被少数几个暴徒所要挟，大家应该团结起来。